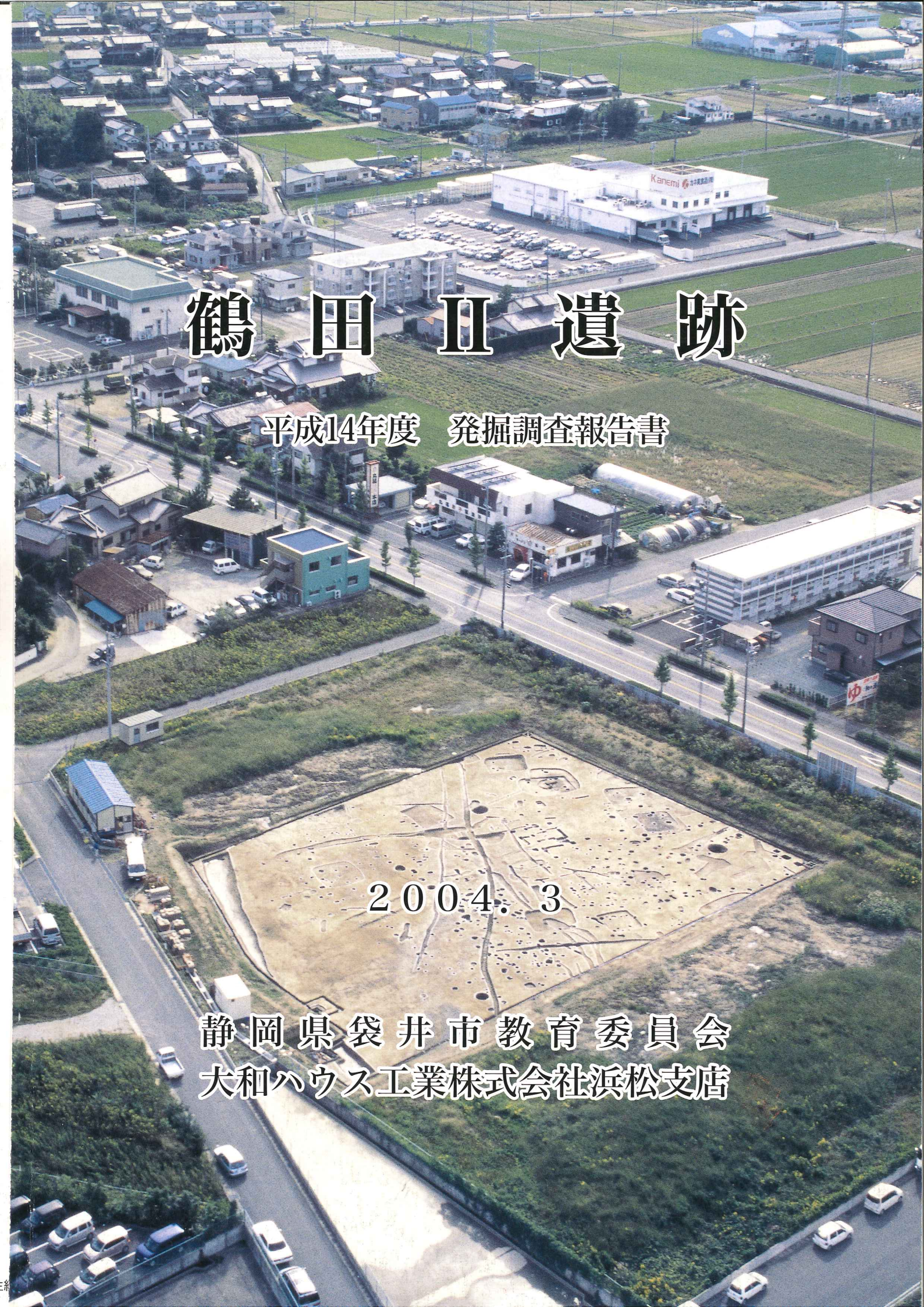




鶴田Ⅱ遺跡

平成14年度 発掘調査報告書

2004. 3

静岡県袋井市教育委員会
大和ハウス工業株式会社浜松支店

鶴 田 II 遺 跡

平成14年度 発掘調査報告書

2004. 3

静岡県袋井市教育委員会
大和ハウス工業株式会社浜松支店

例 言

1. 本報告書は、平成14（2002）年5月7日～平成15（2003）年3月25日の期間に、袋井市山科字池ノ谷2953-1他21筆で実施された鶴田Ⅱ遺跡の第3次調査の発掘調査報告書である。
2. 本発掘調査は大和ハウス工業株式会社浜松支店の委託を受けて建物建設予定地部分のみを発掘調査した。なお、建物以外の周囲の駐車場等は地下の遺構が破壊されないため発掘調査は実施されていない。
3. 発掘調査は静岡県教育委員会文化課の指導を受けて実施した。
4. 今回の発掘調査・報告書執筆は永井義博（袋井市教育委員会）が担当した。
5. 鶴田Ⅱ遺跡における袋井市教育委員会受託の発掘調査の履歴は次のとおりである。

調査の内容	調査年度	発掘調査の原因	調査担当者
第Ⅰ次調査	平成2年度 (1990)	店舗・事務所並びに工場・倉庫の建設のため (委託先・サンレンタル株式会社)	水野雅彦 (袋井市教委)
第Ⅱ次調査	平成9年度 (1997)	森町インター通り線道路改築工事による (委託先・袋井市役所建設経済部都市整備課)	永井義博 (袋井市教委)
第Ⅲ次調査	平成14年度 (2002)	物流倉庫建設のため (委託先・大和ハウス工業株式会社)	永井義博 (袋井市教委)

6. 鶴田Ⅱ遺跡の袋井市教育委員会での遺跡略号は「TTT」である。よって、今回の第3次調査の保管資料の標記略号は「TTT3」である。
7. 現地の発掘調査にあたり大和ハウス工業株式会社浜松支店の皆さんにはたいへんお世話になりました。特に設計二課の羽田浩也さんにはご苦労を掛けました。ここに記して感謝いたします。
8. 袋井市教育委員会の調査体制は次のとおりである。（敬称略）

（平成14年度・現地の発掘調査）

教 育 長 戸塚 雅之 教育次長 藤田 代行 生涯学習課長 鈴木 健二
 課長補佐 高木 雅之 主 査 永井 義博 主 査 松井 一明
 主任学芸員 水野 雅彦 学 芸 員 白澤 崇 経理事務 鈴木寿美子
 （発掘調査参加者）大庭 嘉平 太田 昌宏 兼岡 公子 兼岡 進 高橋 昭雄
 千田 雄幸 佐々木次郎 鈴木 靖孝 三浦とく江 三浦 久雄
 水谷 博次 萩田 権治 山崎 莊一 大庭 京子 高木 啓子
 山下 悦子 石川 祐（奈良大学） 深津 貴宣（袋井高校）

（平成15年度・出土品の資料整理作業）

教 育 長 戸塚 雅之 教育次長 山田 英二 生涯学習課長 堀川 勝
 課長補佐 秋田 勝美 主任主査 永井 義博 主 査 松井 一明
 学 芸 員 白澤 崇 経理事務 鈴木寿美子

9. 本発掘調査は、静岡県教育委員会教育長より大和ハウス工業株式会社浜松支店長井上清貴氏あて「土木工事等のための発掘に係わる指示について（通知）」（教文第3133号・平成14年5月2日付け）の指示によるものである。
10. 平成14年度 鶴田Ⅱ遺跡発掘調査のすべての資料は袋井市教育委員会が保管している。

目 次

第1章	調査に至る経過	1
第2章	調査の経過	1
第3章	調査の方法	2
第4章	地理的・歴史的環境	2
第5章	遺 構	3
第6章	遺 物	4
第7章	まとめにかえて	4
	報告書抄録	

挿 図 目 次

- 第1図 発掘調査の位置 (1/25,000)
- 第2図 旧地形に見る鶴田Ⅱ遺跡 (陸地測量部地図より)
- 第3図 調査地の位置 (1/2,500)
- 第4図 調査グリットの設置 (1/500)
- 第5図 鶴田Ⅱ遺跡全体図
- 第6図 S H 1 実測図
- 第7図 S H 2, S H 3, S X 1 実測図
- 第8図 S B 1, S B 2, S B 3, S B 4 実測図
- 第9図 S B 5, S B 6 実測図
- 第10図 S B 7, S B 8 実測図
- 第11図 S B 9, S B 10, S B 11 実測図
- 第12図 S B 12, S K 1, S K 2, S K 3, S K 4, S K 5 実測図
- 第13図 S E 1, S E 2, S E 3 実測図
- 第14図 S D 1 実測図
- 第15図 S D 2 実測図
- 第16図 出土土器実測図 (1)
- 第17図 出土土器実測図 (2)

写真図版目次

図版 1

鶴田Ⅱ遺跡 調査区全景

図版 2

- (1) 調査区全景 (東南より)
- (2) 遺構の確認状況

図版 3

- (1) 発掘の状況 (西北部分)
- (2) SH1 完了写真 (南より)

図版 4

- (1) SH2 完了写真 (西より)
- (2) SH3 完了写真 (北より)

図版 5

- (1) SB1, 2, 3, 4 完了写真 (南より)
- (2) SB1, 2, 3, 4 完了写真 (北より)

図版 6

- (1) SB4 完了写真 (西より)
- (2) SB4 炉跡 (東より)

図版 7

- (1) SB1, 2, 3 完了写真 (東より)
- (2) SB1, 2, 3 炉跡 (北より)

図版 8

- (1) SB5, 6 完了写真 (北より)
- (2) SB5, 6の発掘調査 (西より)

図版 9

- (1) SB6 完了写真 (東より)
- (2) SB6 炉跡 (東より)

図版10

- (1) S B 7 完了写真 (東より)
- (2) S B 8 完了写真 (南より)

図版11

- (1) S B 9 完了写真 (西より)
- (2) S B 10 完了写真 (西より)

図版12

- (1) S B 11 完了写真 (南より)
- (2) S B 11 完了写真 (南西より)

図版13

- (1) S K 1 遺物出土状況
- (2) S K 2 完了写真 (西より)
- (3) S K 3 遺物出土状況 (東より)

図版14

- (1) S K 3 出土遺物拡大
- (2) S K 4 完了写真 (西より)
- (3) S K 5 完了写真 (東より)

図版15

- (1) S E 2 遺構検出状況
- (2) S E 2 曲物の重ねた状況
- (3) S E 2 出土した土器

図版16

- (1) S E 3 完了写真 (北西より)
- (2) S E 3 出土した土器
- (3) S E 1 遺構検出状況

図版17

- (1) S D 1 完了写真 (南より)
- (2) S D 1 の北側 完了写真 (南より)
- (3) S D 2 完了写真 (東より)

図版18

- (1) 柱穴の発掘状況
- (2) 礎板の出土状況
- (3) 柱穴の完了写真

図版19

- (1) 礎板の出土状況
- (2) 柱穴に残った柱根部分
- (3) 柱穴内の礎石

図版20

- (1) 溝跡より出土した弥生土器
- (2) 262 完了写真(東より)
- (3) 262 出土遺物の拡大

図版21

- (1) 226 出土土器の発掘
- (2) 226 土器の出土
- (3) 226 土師器の出土

図版22

- (1) 溝跡より出土した土器
- (2) SK2の発掘の状況(西より)
- (3) 土器の出土状況

図版23

- (1) SK5の発掘調査
- (2) 502 土師器の坏身が出土
- (3) 012 須恵器の坏蓋の出土

図版24

- (1) 262 出土土器-1
- (2) 262 出土土器-2
- (3) 262 出土土器

図版25

- (1) SK4 出土土器-4
- (2) SK4 出土土器-3
- (3) 226 出土土器-8

図版26

- (1) 2 2 6 出土土器-7
- (2) 2 2 6 出土土器
- (3) 2 2 6 出土土器

図版27

- (1) 2 2 6 出土土器-6
- (2) 2 2 6 出土土器
- (3) 2 2 6 出土土器-5

図版28

- (1) S B 6 出土土器-11
- (2) S B 5 出土土器-10
- (3) S B 10 出土土器-13

図版29

- (1) S B 10 出土土器-15
- (2) S B 9 出土土器-16
- (3) 土壇内 出土土器-24

図版30

- (1) S E 3 出土土器-18
- (2) S K 3 出土土器-26
- (3) 4 0 3 出土土器

図版31

- (1) S E 2 出土土器-22
- (2) S E 3 出土土器-20
- (3) 0 1 2 出土土器

図版32

- (1) S E 3 出土土師器-21
- (2) 墨書土器「春」
- (3) 墨書土器「□□」

図版33

- (1) S E 3 出土墨書土器-17「春」 次ページ(1)と同じ
- (2) S E 2 出土墨書土器-23「□」 次ページ(2)と同じ
- (3) S K 3 出土墨書土器-25「□」 次ページ(3)と同じ

図版34

- (1) S E 3 出土墨書土器-17 「春」 前ページ (1) と同じ
- (2) S E 2 出土墨書土器-23 「□」 前ページ (2) と同じ
- (3) S K 3 出土墨書土器-25 「□」 前ページ (3) と同じ

図版35

- (1) 墨書土器 「□」
- (2) 墨書土器 「□」
- (3) 墨書土器 「□」

第1章 調査に至る経過

鶴田Ⅱ遺跡は、袋井市山科地内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地である。遺跡発見の経緯は、昭和60年頃に森町・インター通り線の築造に伴い県内の考古学愛好家が工事現場の断面より住居跡を確認したことによる。この当時の鶴田Ⅱ遺跡の所見としては、弥生土器とともに住居跡、溝跡、柱穴跡等が検出されたため、弥生時代後期の集落遺跡として認識されていた。次いで、平成2年11月1日から12月26日にかけて株式会社サレンタルによる店舗建設が遺跡範囲内で計画され、これに伴い発掘調査（第1次調査）が行われた。主な成果としては弥生時代の遺構・遺物が検出されたが、これに混じって古墳時代初頭の土師器が出土し、長期間に渡って遺跡が営まれたことが確認された。さらに7年後の平成9年7月22日から8月5日にかけて、森町インター通り線の拡幅工事に伴う発掘調査（第2次調査）が行われた。この当時は道路工事の場合は全面発掘であったため設置される歩道部分を中心に、すべての開発範囲の発掘調査が行われたため鶴田Ⅱ遺跡の北限を確認することができた。

今回の袋井市山科地内の開発予定地内の埋蔵文化財の協議は、平成4年9月14日付けで袋井市教育委員会に大和ハウス工業株式会社 支配人近藤賢治氏より「埋蔵文化財等試掘調査の依頼について」が提出されている。これに対して平成5年8月23日に袋井市教育長名で同所が埋蔵文化財の包蔵地であることが回答されている。この後、しばらく時間を置いた平成13年5月30日付けで大和ハウス工業株式会社浜松支店支配人井上清貴氏より「埋蔵文化財発掘調査の依頼について」が提出された。しかし、この年は教育委員会はすでに多数の遺跡調査を受託済みであったため協議の上、平成14年度に発掘調査を実施し、平成15年度に出土品資料整理と報告書の作成を行うこととした。

第2章 調査の経過

平成14年5月7日 「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」が締結される。

5月25日 現場事務所プレハブ建て上げ。水道・電気引き込み作業の諸準備を行う。

6月10日～ 重機による表土の掘削・除去作業。集水マスの掘削で土器が出土。

6月24日～ 発掘調査開始。弥生土器・土師器片が出土している。配水溝の設置作業。

7月15日～ 作業員による遺構確認作業。溝跡、柱穴跡等を検出する。

7月29日～ 確認された遺構を発掘する。弥生時代、古墳時代の溝跡、柱穴跡、土壇が確認される。土器等の遺物も出土している。猛暑のため遺構面の乾燥が激しい。

8月19日～ 炎天下の中、井戸跡・建物跡等も調査される。9月、10月も発掘作業を継続。

10月24日 ラジコンヘリコプターによる空中写真測量。完了写真の撮影と補測作業を行う。

10月29日 残務整理。現場作業の終了に伴い撤収作業。出土品資料整理作業の開始。

平成15年3月25日 平成14年度の埋蔵文化財発掘調査委託契約（外業）が完了する。

平成15年7月25日 平成15年度の出土品資料整理作業の委託契約が締結され編集作業を開始する。

平成16年3月25日 発掘調査報告書が完成し静岡県庁等の関係機関に送付され委託契約は完了する。

第3章 調査の方法

今回の発掘調査は、鶴田Ⅱ遺跡の範囲内へ大型物流施設が建設されることになり、地下の遺構が破壊される部分（約2,500㎡）のみに実施された。よって、建物周囲の駐車スペースや遊水池で遺物包含層まで開発が届かない部分については盛土されて保存されている。よって、それらの部分で新規に開発が計画された場合は再調査が必要である。

さて、発掘予定地は旧水田のまま残されていたので大型バックホーとクローラ・ダンプにより表土を除去した。水田床土の下にはいわゆる遺物包含層の堆積はなく、実際には旧水田耕作土と水田床土を除去するとただちに遺構が確認できる。重機での掘削後は発掘作業員の手により遺物包含層を厚さ3cmで順次掘り下げていった。この調査区は低湿地であるため排水作業が調査の正否を決める条件となるため、調査区の南西隅と北東隅に集水マスを設置し、調査地の隅に排水溝を切って大雨や湧き水で遺跡が水没しないように手配した。今回の発掘調査は地盤の弱い低地ではあったが、周辺に広い作業ヤードが確保されていたため安全に作業ができた。

遺跡の測量はラジコンヘリコプターによる空中写真測量を使用した。40分の1、100分の1の遺構実測図を作成するとともに鳥瞰写真の撮影も行った。遺構断面図や立面図は手作業で実測した。遺跡の写真撮影はラジコンヘリコプターからはブローニサイズ6×6を使用し、遺跡内の部分的な写真やスナップ撮影には、35mmフィルムはニコンF70を、デジタル映像はニコンクールピクス5700を使用した。

第4章 地理的・歴史的環境

鶴田Ⅱ遺跡をはじめとする太田川流域の遺跡群の成り立ちについてはすでに袋井市教育委員会によって発行された「鶴松遺跡」「土橋遺跡」「堀越ジョウヤマ遺跡」等の発掘調査報告書が詳しく解説をしている。特にそれらの考察の骨格をなすのが静岡大学名誉教授の加藤芳朗氏による流域の地質調査であり、この報告書の中で鶴田Ⅱ遺跡付近については“太田川左岸の後背湿地の中にあり（途中略）その立地条件を探るべく調査を行った結果、袋井市内の山梨～田中～鶴松～徳光～西別所～土橋と続く太田川旧流路に起因している”と記されている。この考察を頭に入れて明治になってから制作された旧陸地測量部（明治22年作成）による地図からも現在は土地改良事業等で失われた小さな水路や村と村を結ぶ小道の配置から読みとることができる。

遺跡の時期としては隣接する鶴松遺跡が弥生時代中期から後期の遺構・遺物を出土する初現的な遺跡であり袋井の稲作発祥の地であるが、ここから北へ、南へ自然堤防上を拡散していったことがすでにわかっている。鶴田Ⅱ遺跡では弥生時代中期の遺物は出土していないが後期の菊川式土器を中心にした集落が想定されており、この集落は古墳時代に入っても継続して営まれていることがわかる。

さらに奈良・平安時代から中世の遺物も比較的多く出土しており、墨書土器の出土などの特徴からこの地域が中央集権的な強い指導力のもと、古くから広い地域で灌漑施設の整備など進んだ土木技術により次々と開発されていったことが推定できる。

第1章 調査に至る経過

鶴田Ⅱ遺跡は、袋井市山科地内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地である。遺跡発見の経緯は、昭和60年頃に森町・インター通り線の築造に伴い県内の考古学愛好家が工事現場の断面より住居跡を確認したことによる。この当時の鶴田Ⅱ遺跡の所見としては、弥生土器とともに住居跡、溝跡、柱穴跡等が検出されたため、弥生時代後期の集落遺跡として認識されていた。次いで、平成2年11月1日から12月26日にかけて株式会社サレンタルによる店舗建設が遺跡範囲内で計画され、これに伴い発掘調査（第1次調査）が行われた。主な成果としては弥生時代の遺構・遺物が検出されたが、これに混じって古墳時代初頭の土師器が出土し、長期間に渡って遺跡が営まれたことが確認された。さらに7年後の平成9年7月22日から8月5日にかけて、森町インター通り線の拡幅工事に伴う発掘調査（第2次調査）が行われた。この当時は道路工事の場合は全面発掘であったため設置される歩道部分を中心に、すべての開発範囲の発掘調査が行われたため鶴田Ⅱ遺跡の北限を確認することができた。

今回の袋井市山科地内の開発予定地内の埋蔵文化財の協議は、平成4年9月14日付けで袋井市教育委員会に大和ハウス工業株式会社 支配人近藤賢治氏より「埋蔵文化財等試掘調査の依頼について」が提出されている。これに対して平成5年8月23日に袋井市教育長名で同所が埋蔵文化財の包蔵地であることが回答されている。この後、しばらく時間を置いた平成13年5月30日付けで大和ハウス工業株式会社浜松支店支配人井上清貴氏より「埋蔵文化財発掘調査の依頼について」が提出された。しかし、この年は教育委員会はすでに多数の遺跡調査を受託済みであったため協議の上、平成14年度に発掘調査を実施し、平成15年度に出土品資料整理と報告書の作成を行うこととした。

第2章 調査の経過

平成14年5月7日 「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」が締結される。

5月25日 現場事務所プレハブ建て上げ。水道・電気引き込み作業の諸準備を行う。

6月10日～ 重機による表土の掘削・除去作業。集水マスの掘削で土器が出土。

6月24日～ 発掘調査開始。弥生土器・土師器片が出土している。配水溝の設置作業。

7月15日～ 作業員による遺構確認作業。溝跡、柱穴跡等を検出する。

7月29日～ 確認された遺構を発掘する。弥生時代、古墳時代の溝跡、柱穴跡、土壇が確認される。土器等の遺物も出土している。猛暑のため遺構面の乾燥が激しい。

8月19日～ 炎天下の中、井戸跡・建物跡等も調査される。9月、10月も発掘作業を継続。

10月24日 ラジコンヘリコプターによる空中写真測量。完了写真の撮影と補測作業を行う。

10月29日 残務整理。現場作業の終了に伴い撤収作業。出土品資料整理作業の開始。

平成15年3月25日 平成14年度の埋蔵文化財発掘調査委託契約（外業）が完了する。

平成15年7月25日 平成15年度の出土品資料整理作業の委託契約が締結され編集作業を開始する。

平成16年3月25日 発掘調査報告書が完成し静岡県庁等の関係機関に送付され委託契約は完了する。

第5章 遺 構

おおまかな基本層位は、第1層＝水田耕作土（厚さ約20cm）、第2層＝水田床土（厚さ約10cm）、第3層＝場所によって薄い遺物包含層（厚さ約2cm）、第4層＝遺跡の基盤層・河川の氾濫による黄褐色土の堆積層または河道跡の砂利層となっている。ただし、発掘前に農道の拡幅が行われたり、物流施設の土地境界の擁壁が設置されたた造成工事の残土が一部に残っていた。試掘調査でも一部に大きく攪乱を受けて遺構・遺物が失われた場所が確認されている。推定された遺跡範囲でも、遺跡中心部からは大きく東に外れた縁辺部とも言える場所である。検出された遺構は、掘立柱建物跡、柱穴跡、竪穴式住居跡、大溝跡、土壇、井戸跡が点在している。遺構の分布は自然堤防の位置の関係で西側に密であり、東側は後背湿地でもあるためやや地質が軟弱で遺構も疎である。

（1）掘立柱建物跡・柱穴跡

柱穴跡は多数検出されているが、その中で建物跡にまで発展できる遺構は少なくSH1～3までの3棟である。このうちSH1は古墳時代の平地式の住居跡として、SH2は平安時代の建物跡、SH3は柱穴の状況から古墳時代の倉庫跡と考えている。調査したほとんどの柱穴は上部を水田耕作のトラクター等により削平されており遺構確認面はかなり下がっている。

（2）竪穴式住居跡

円形、隅丸方形、方形の3種類の平面プランの竪穴式住居跡が検出されている。一部に不定形の住居跡が検出されているが、これは遺構上部を農耕により削平されたため通常の確認面より低い位置で発掘されたためであろう。鶴田Ⅱ遺跡の場合、一般的に円形の住居跡は弥生時代後期の菊川式土器を出土するものが多く、隅丸方形、または方形の平面形態のものは古墳時代前期または中期の住居跡である。これらの住居の炉跡は建物中央に位置し、壁際に設置されるまでにはまだ少しの時間を必要とするようである。住居内の柱穴は規則性に乏しく、また別の時期の柱穴跡も重複して住居内で発見されるため上屋構造を知るまでの資料は発見されていない。

（3）土壇

鶴田Ⅱ遺跡の土壇はその規模から他の遺跡の検出例にある埋葬用のものはほとんどなくSK1～5までの遺構は土器等の廃棄用または貯蔵用の穴であり、SK3は中世の井戸跡の可能性を持つ。

（4）井戸跡

SE1は近代の遺構で、井戸の堀方の四隅に丸木杭を打ち込んで四辺は板を横に入れて周囲の崩落を押さえていたようである。遺構が掘り上がった時点ですでに土圧で内側に倒れ込んできていたが、運悪く大雨の直撃を受けて遺跡が冠水したため詳しい調査の前に木材が流失してしまった。

SE2は平安時代の井戸跡で、堀方内は下部に円形の曲げ物を2段に重ねた上にやや大きな曲げ物を3段目として重ねている。その上は厚手の板に切り込みをいれたもので井桁に組み合わせている。一番下の曲げ物の内外とも川で採集してきたと思われる比較的整った砂利が混入されており湧水の濾過に使用したものらしい。一番下の曲げ物内よりほぼ完形の墨書土器ほか1点が出土している。

SE3も平安時代の井戸跡で、やや大きめの堀方の下に楕円形の2段の曲げ物が重ねて検出されている。

（5）大溝跡

調査区東側のSD1は、覆土内より弥生時代～近世までの土器破片を検出しているが、堆積していた土の状況から時期は新しいところに限定できそうである。SD2は土師器破片等を出土しているが、

いずれも破片が摩滅しており時代の確定には不向きであった。

第6章 遺 物

出土遺物は遺構同様に多彩で弥生土器、土師器、須恵器、陶器破片、磁器破片、石器破片、木製品等の出土品が多数ある。しかし、そのほとんどが水田耕作時に破損して原形を知ることができる資料はすくない。この中で復元可能な遺物のうち土器類を第16・17図に図化し、各部の計測値は別に「出土土器一覧表」に記した。出土遺物実測図の1, 2は、弥生時代後期前半の縄文を使用したいわゆる二之宮式土器の壺型土器である。隣接する別の発掘現場では同じく二之宮式や菊川式の弥生土器が出土しているためこれらの遺構群と関連があると考えられる。3～16は古墳時代前期～の住居跡等の遺構内出土の古式土師器である。古墳時代の遺構・遺物は周辺の調査でまとまって検出されていないので貴重な資料になると思われる。平安時代の遺構出土の土器の中で17, 18, 19はS E 3の井戸の底から出土した遺物である。土師器の20, 21も同じくS E 3の出土である。また、22, 23は井戸跡S E 2の底から出土した遺物である。このうち墨書土器は17の底部に「春」の文字が、23の底部にも墨書がある。24は土壙502より出土した土師器である。S E 2, S E 3出土の土器はこれらの井戸の時期を知る上で大きな手掛かりになると考えられる。また、25, 26は鎌倉時代の井戸跡と思われるS K 3の堆積途中の層位より出土した山茶碗であり前者25の底部には解読不明ながら墨書がある。これらの山茶碗はS K 3の使用時の時期ではないが廃絶時期を知る上で参考となる資料である。

第7章 まとめにかえて

今回の鶴田Ⅱ遺跡の発掘調査では次の3点が注目された。まず、弥生時代後期の溝跡は隣接する別の発掘調査で出土した遺構群と関連があり、弥生時代集落跡の東南限界とも考えることができる。

ところで、本調査区の遺構の主体は古墳時代前期の集落であった。今回の発掘調査全体図を確認すると、中央に広場と掘建柱建物を据えて、まるでそれらを囲むように小規模な集落が成立していたようにも見える。ただし、注意しなければならないのは、これらの竪穴住居跡が同時期に営まれていたとする確証がないところである。ところで竪穴住居跡の中には中央に炉を持つ生活感のある遺構と、炉跡が検出できない竪穴とが2種類検出されている。このうち、炉跡のある竪穴はまるで他の場所に住居の移動が許されないのかのようにほぼ同じ場所に何度も重複して住居を作らされているが炉跡のない竪穴は空いたスペースから単独で検出されている。

平安時代・中世の遺構は井戸跡等が検出されている。またこれらの遺構からは墨書土器も出土している。周辺の遺跡でも同様な遺構が確認されており、古代・中世に磐田市玉越付近から袋井市山梨方面にかけての旧太田川の自然堤防上を利用した交通路が存在したことが想像できる資料が1つ加わった。

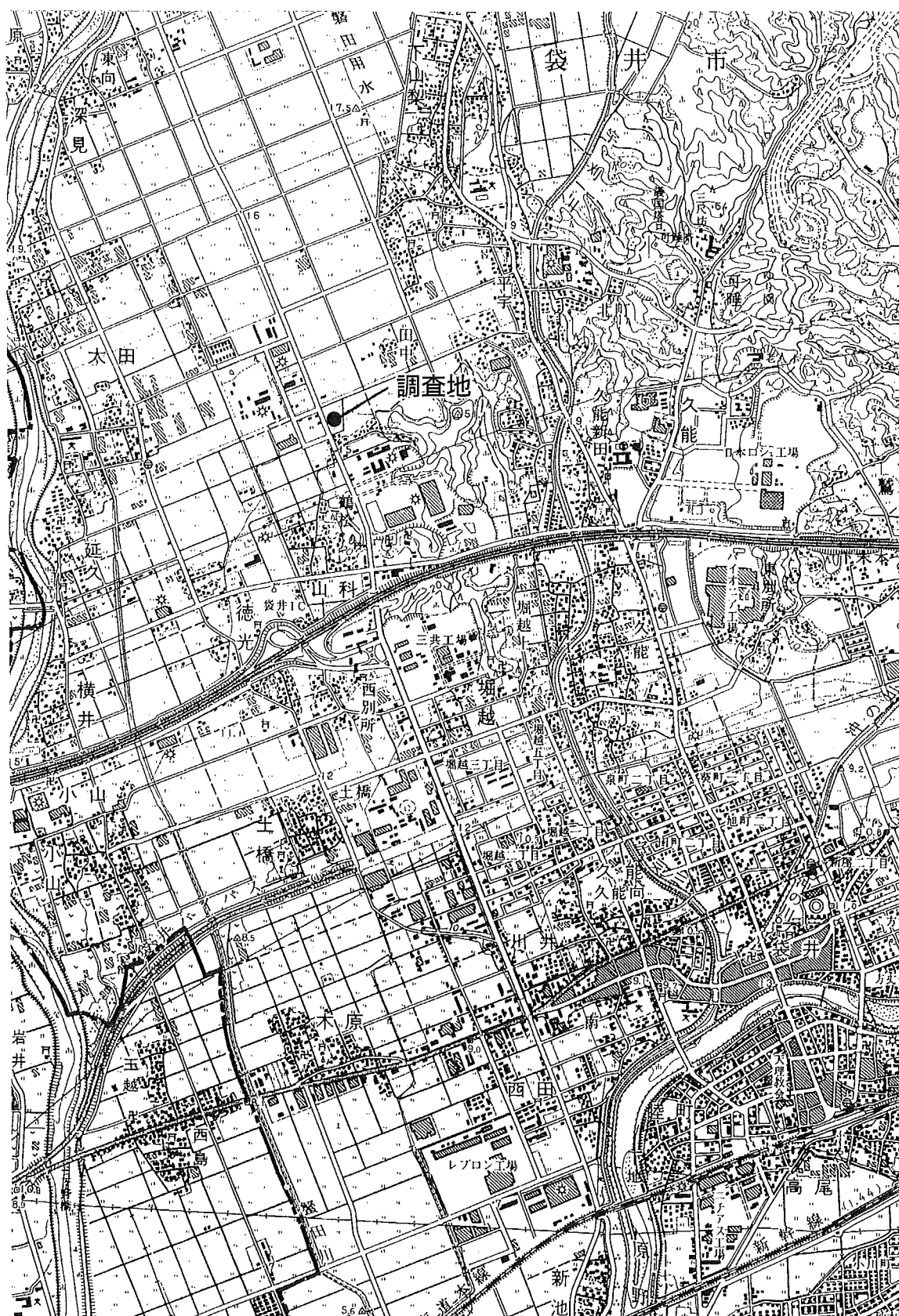
土 器 一 覧 表

番号	遺構名	種 別	器 種	法 量 (cm)	参 考
1	2 6 2	弥生土器	壺	現在高18.0 口径15.7	
2	〃	〃	〃	器高23.5 口径12.0 胴径15.2 底径6.2	
3	S K 4	土 師 器	〃	現在高15.6 胴径25.5	
4	〃	〃	高坏	器高14.6 口径21.8 底径9.6	
5	2 2 6	〃	台付甕	現在高14.4 底径9.2	
6	〃	〃	壺	現在高12.4 胴径12.0 底径3.8	
7	〃	〃	〃	器高19.2 口径11.6 胴径17.0 底径6.2	
8	〃	〃	〃	器高28.2 口径15.2 胴径25.4 底径9.0	
9	〃	〃	〃	現在高23.0 胴径25.6	
10	S B 5	〃	壺	現在高11.0 口径15.8	
11	S B 6	〃	〃	現在高9.0 口径22.0	
12	〃	〃	〃	現在高4.0 底径8.4	
13	S B 10	〃	高坏	現在高5.0 底径9.6	
14	〃	〃	壺	現在高4.0 口径14.0	
15	〃	〃	〃	現在高12.0 胴径13.0 底径6.0	
16	S B 9	〃	高坏	器高11.4 口径19.6 底径10.0	
17	S E 3	灰釉陶器	皿	器高2.7 口径15.0 底径8.0	墨書土器「春」
18	〃	〃	〃	器高2.5 口径15.2 底径7.4	10世紀後半
19	〃	〃	〃	器高3.1 口径11.0 底径5.4	
20	〃	土 師 器	坏身	器高3.8 口径12.0 底径6.8	
21	〃	〃	〃	器高3.0 口径13.8 底径10.0	
22	S E 2	灰釉陶器	碗	器高5.2 口径16.0 底径7.4	11世紀後半
23	〃	〃	〃	器高3.5 口径14.2 底径6.5	墨書土器「□」
24	5 0 2	土 師 器	坏身	器高3.4 口径13.2 底径7.2	
25	S K 3	山 茶 碗	碗	器高5.3 口径14.8 底径6.2	墨書土器「□」
26	〃	〃	〃	器高5.5 口径14.6 底径5.6	12世紀後半

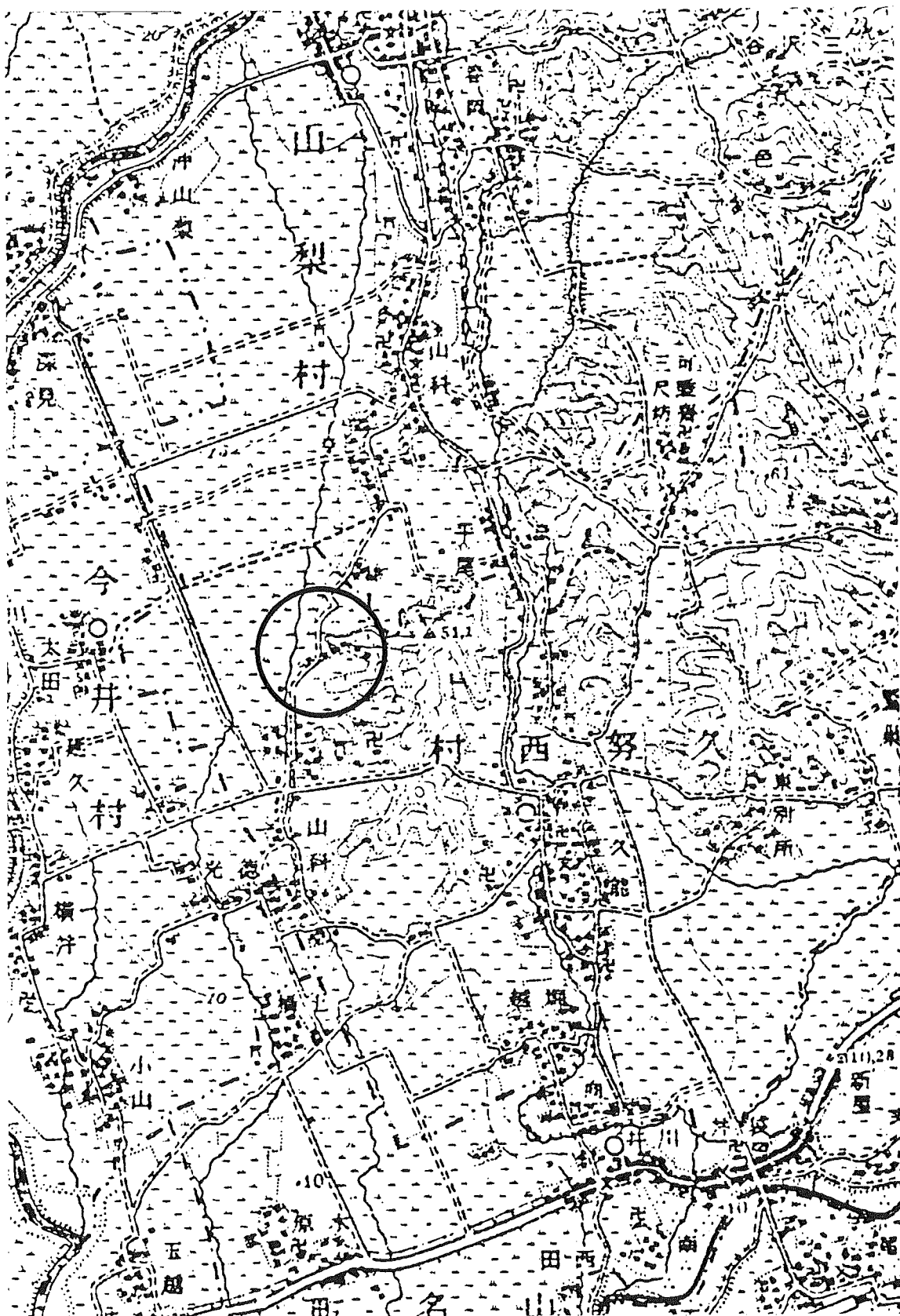
(参考文献・引用文献)

- 袋井市役所 1983 『袋井市史 通史編』
- 袋井市教育委員会 1985 『土橋遺跡 ―基礎資料編― 一般国道1号袋井バイパス(袋井地区)埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 袋井市教育委員会 1985 『坂尻遺跡 ―序文・古墳時代編― 一般国道1号袋井バイパス(袋井地区)埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 袋井市教育委員会 1985 『坂尻遺跡 ―自然科学編― 一般国道1号袋井バイパス(袋井地区)埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 袋井市教育委員会 1985 『坂尻遺跡 ―平安時代・中世編― 一般国道1号袋井バイパス(袋井地区)埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 袋井市教育委員会 1986 『玉越遺跡 一般国道1号袋井バイパス(袋井地区)埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 袋井市教育委員会 1987 『鶴松遺跡Ⅱ ―日本電信電話公社山科無線中継所建設に伴う発掘調査報告書―』
- 袋井市教育委員会 1991 『堀越ジョウヤマ遺跡発掘調査報告書』
- 袋井市教育委員会 1991 『袋井市鶴田Ⅱ遺跡 ―サンレンタル株式会社店舗・事務所並び工場・倉庫建設工事に伴う鶴田Ⅱ遺跡緊急調査報告書―』
- 袋井市教育委員会 1995 『小山角田遺跡 永興物産株式会社袋井工場敷地造成事業に関わる緊急発掘調査報告書』
- 袋井市教育委員会 1999 『鶴田Ⅱ遺跡(第2次調査) ―平成9年度 森町袋井インター通り線道路改築工事に伴う発掘調査報告書―』
- 静岡県教育委員会 1989 『静岡県の窯業遺跡(静岡県内窯業遺跡分布調査報告書)』
- 静岡県 1990 『静岡県史 資料編1 考古一』
- 静岡県 1990 『静岡県史 資料編2 考古二』
- 静岡県 1992 『静岡県史 資料編3 考古三』
- 静岡県 1994 『静岡県史 通史編1 原始・古代』
- 愛知県陶磁資料館 1981 『猿投窯』

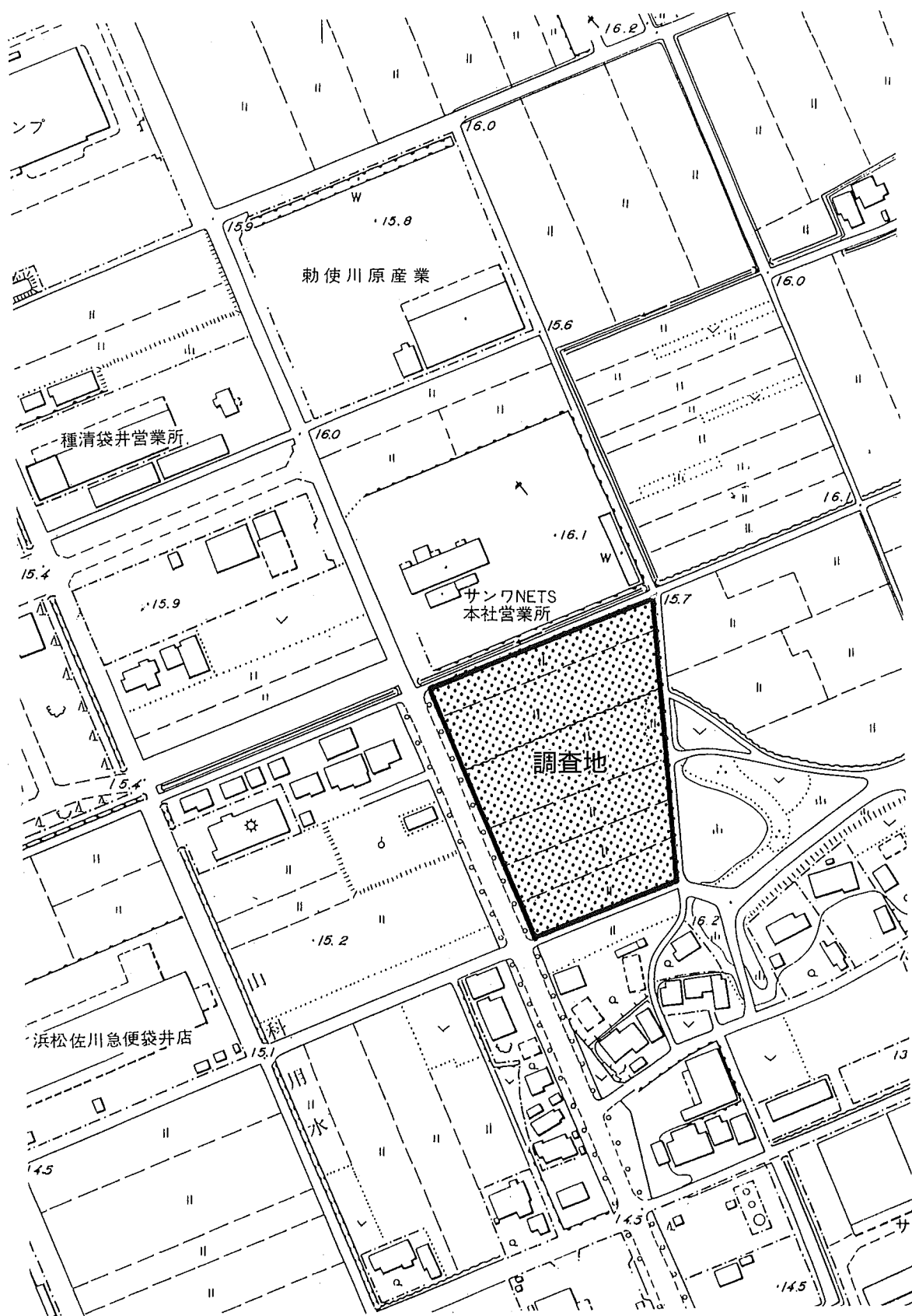
插图



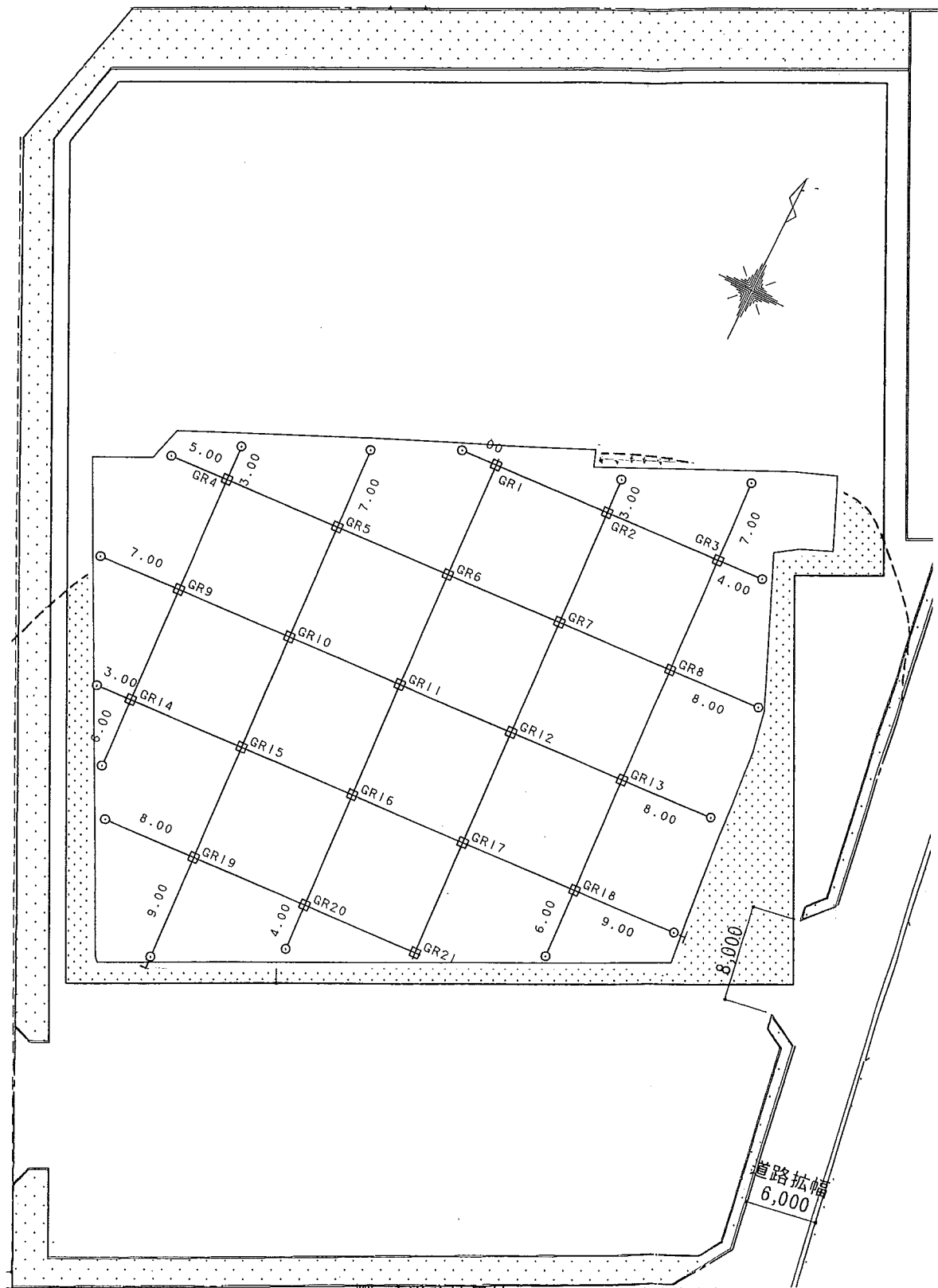
第1図 発掘調査の位置 (1/25,000)



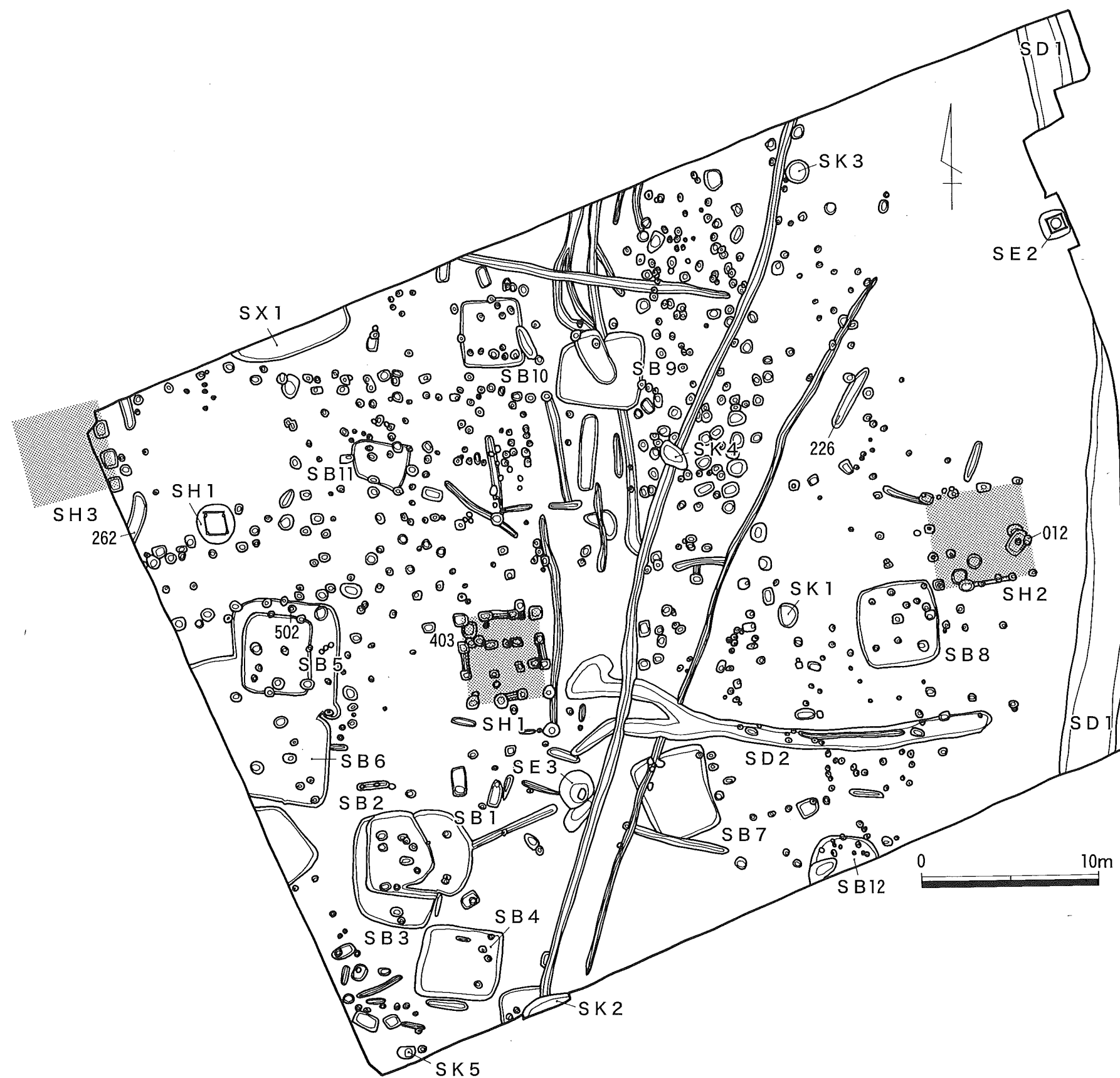
第2図 旧地形に見る鶴田Ⅱ遺跡（陸地測量部地図より）



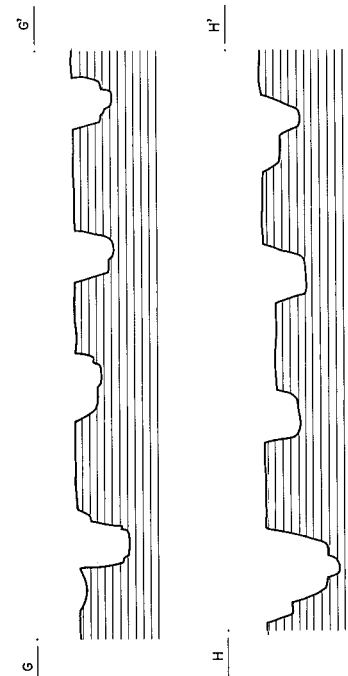
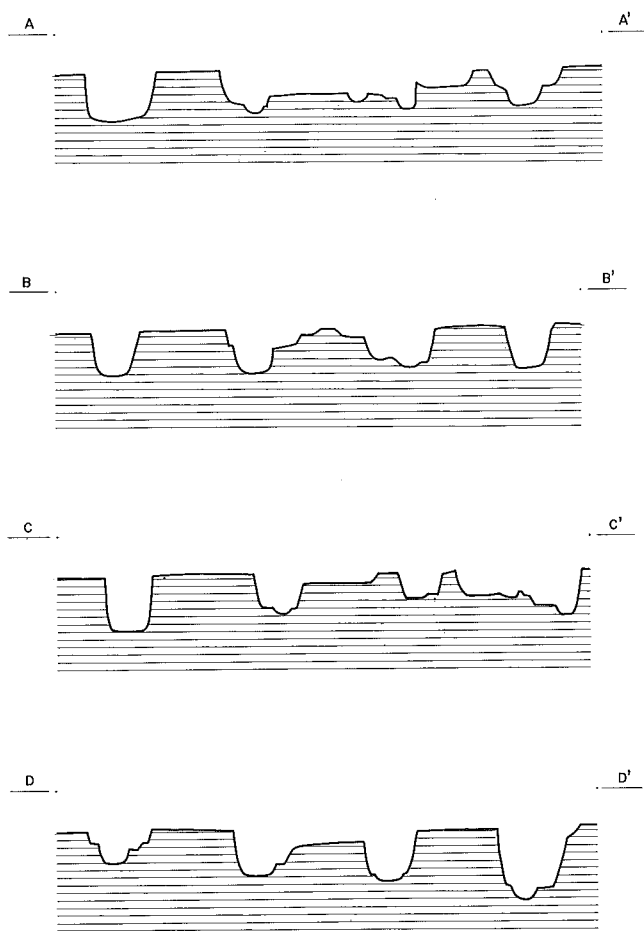
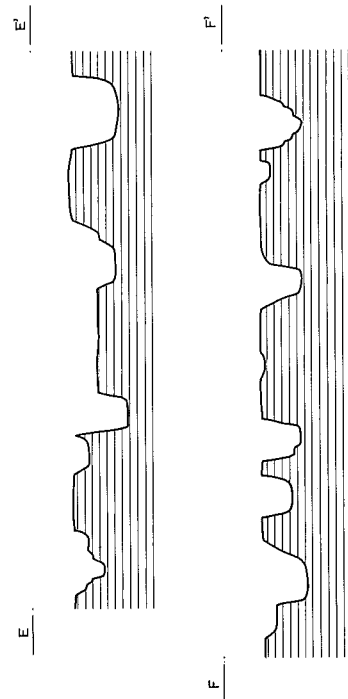
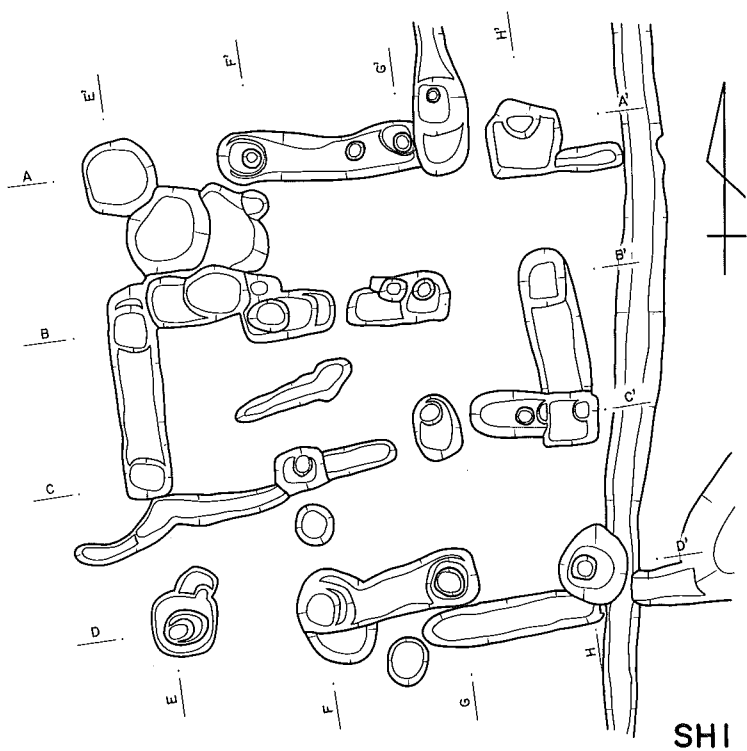
第3図 調査地の位置 (1/2,500)



第4図 調査グリットの設置 (1/500)

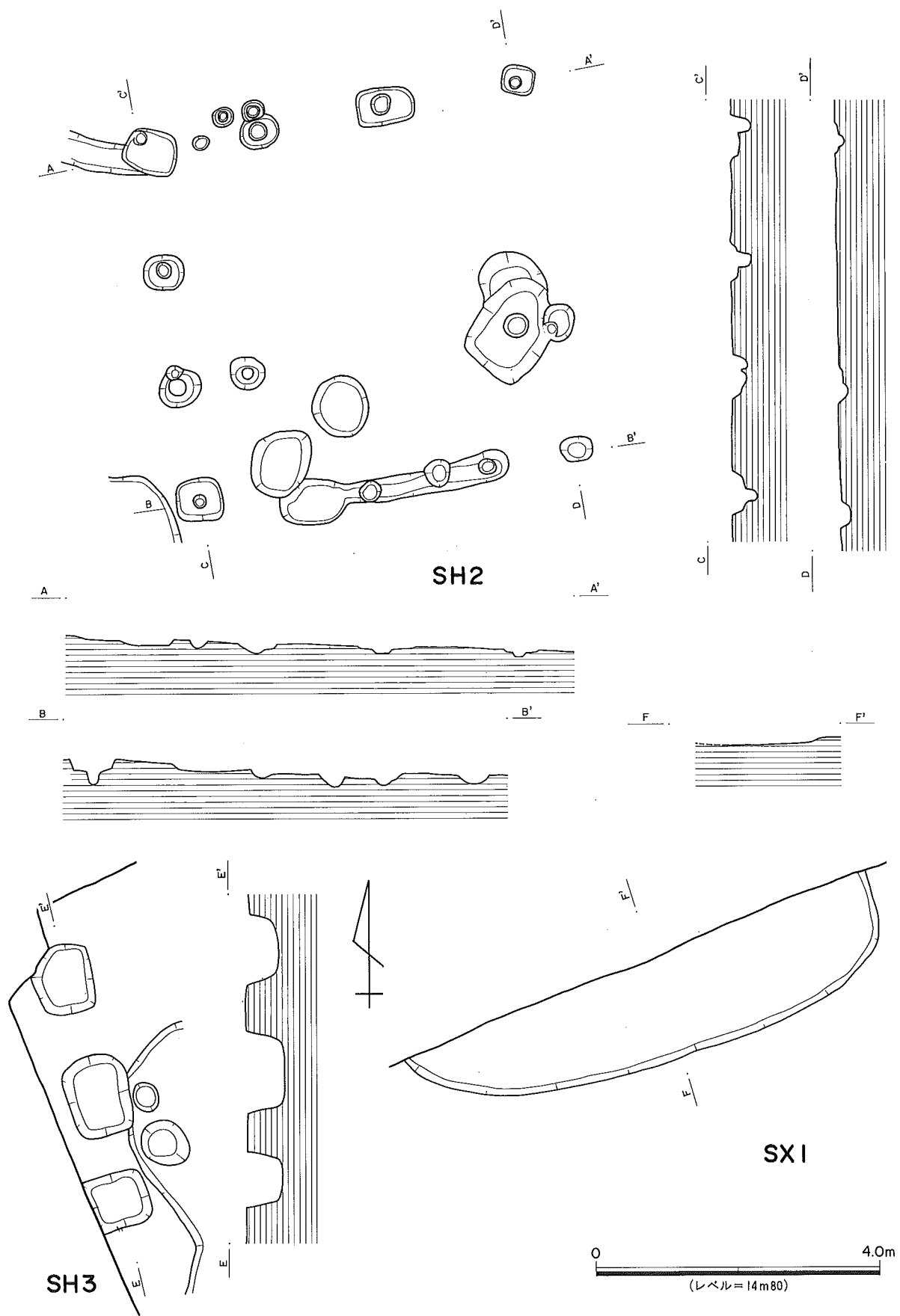


第5図 鶴田Ⅱ遺跡全体図

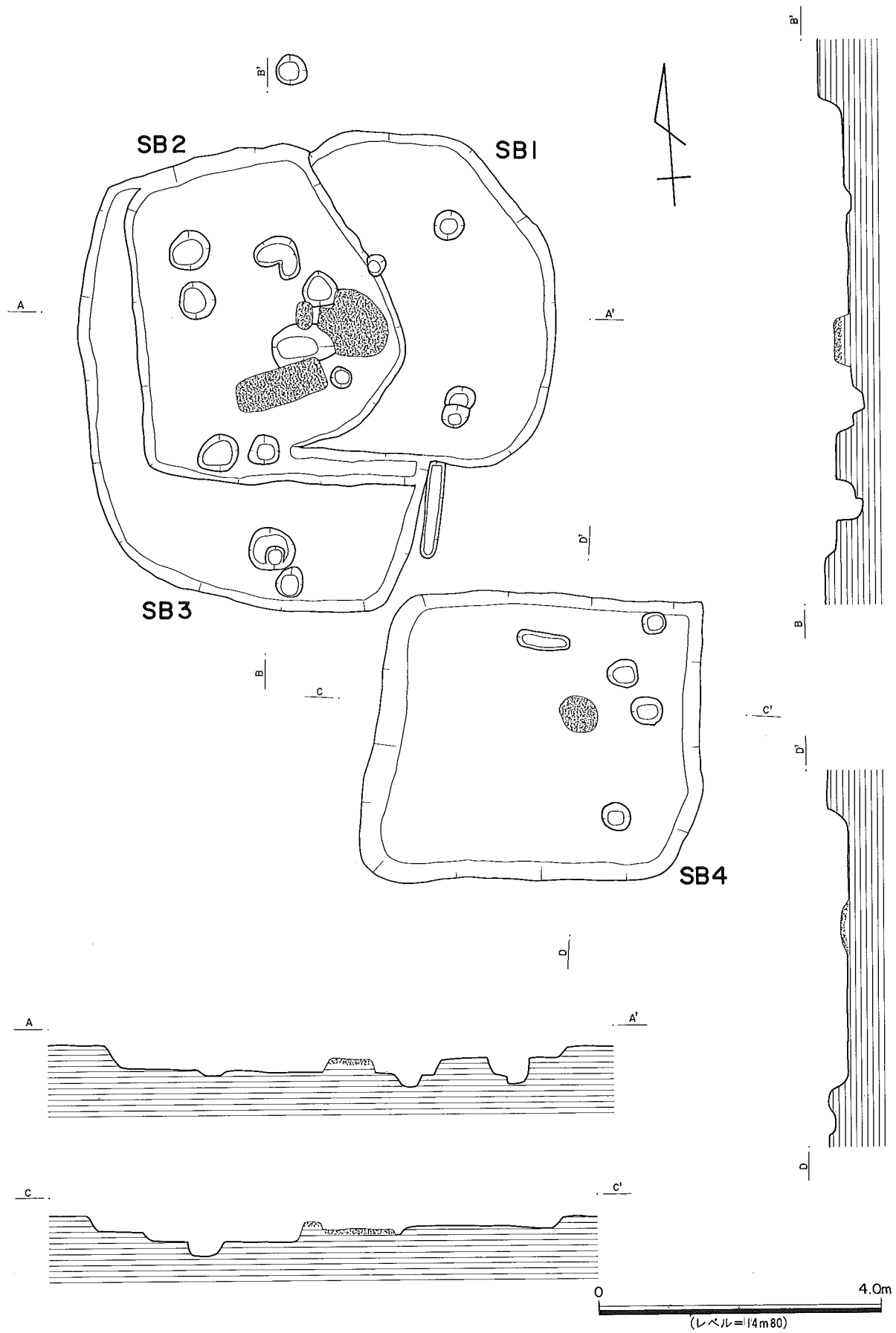


0 4.0m
(レベル=14m80)

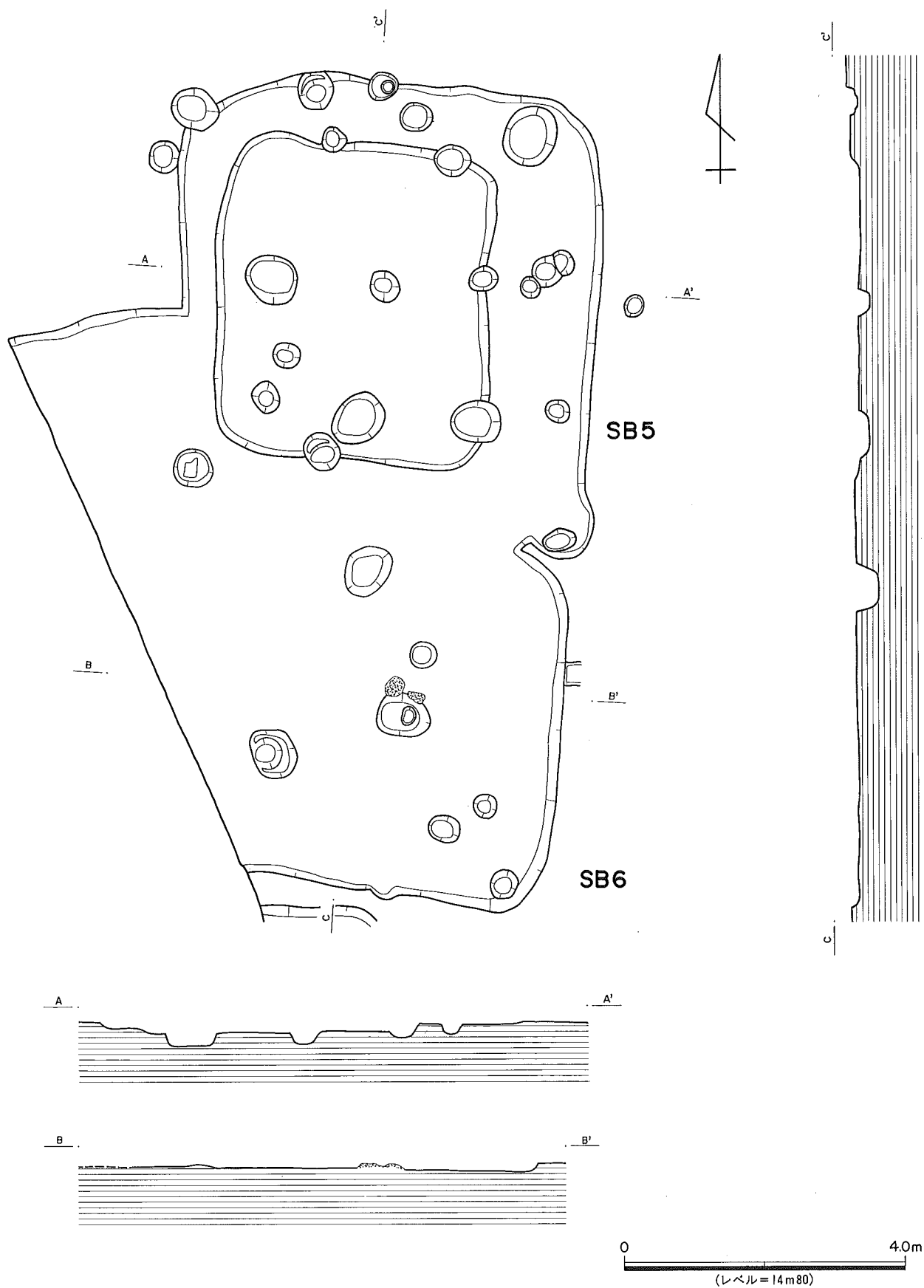
第6図 SH1実測図



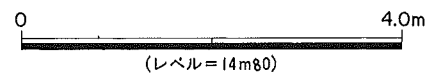
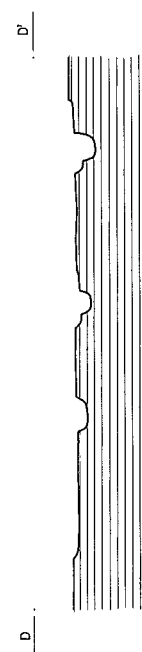
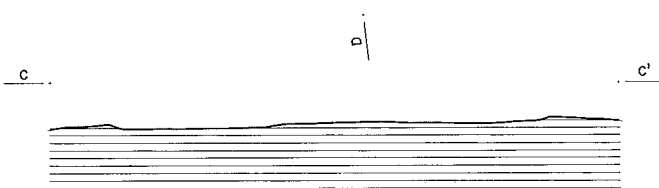
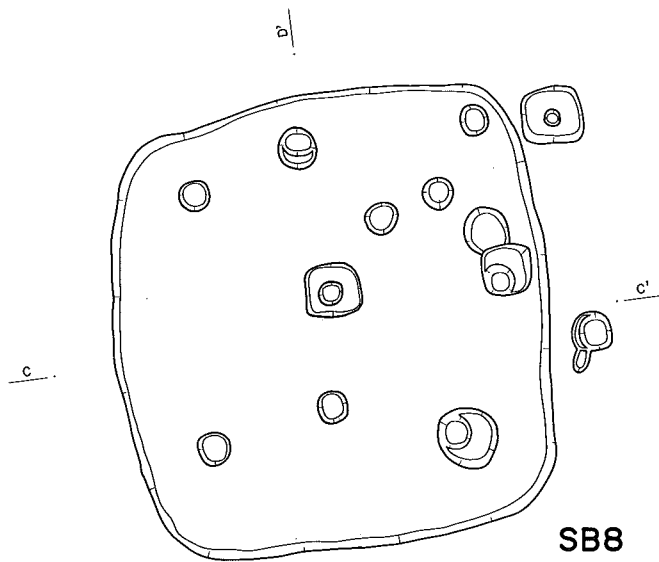
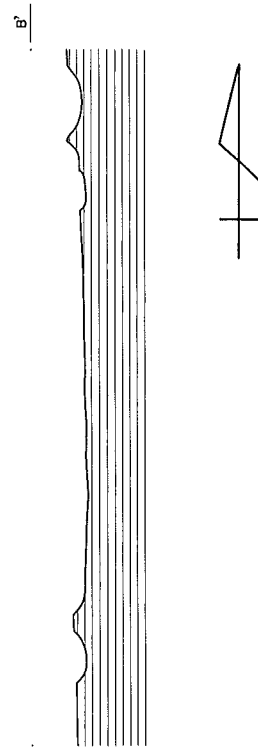
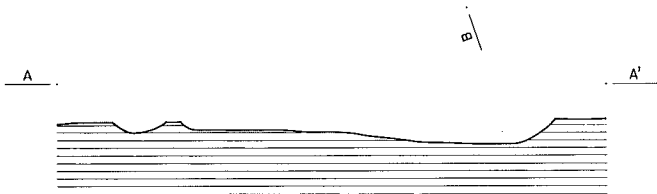
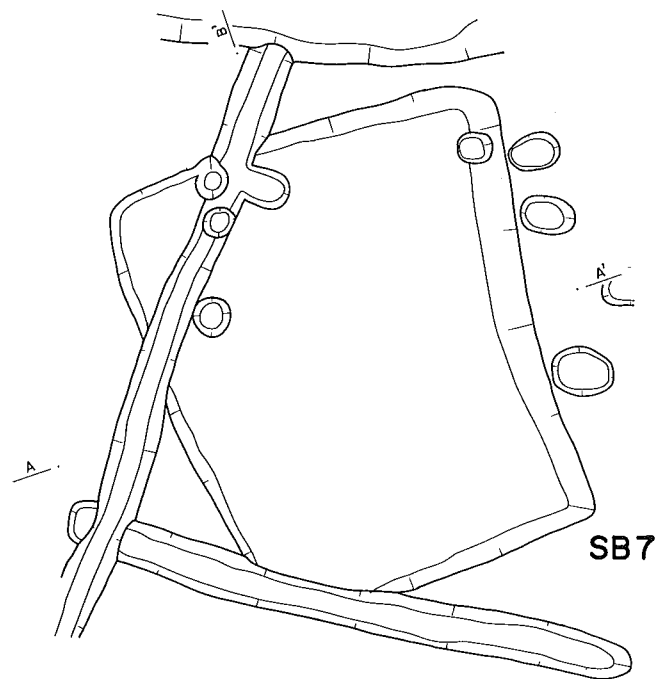
第7図 SH2, SH3, SX1実測図



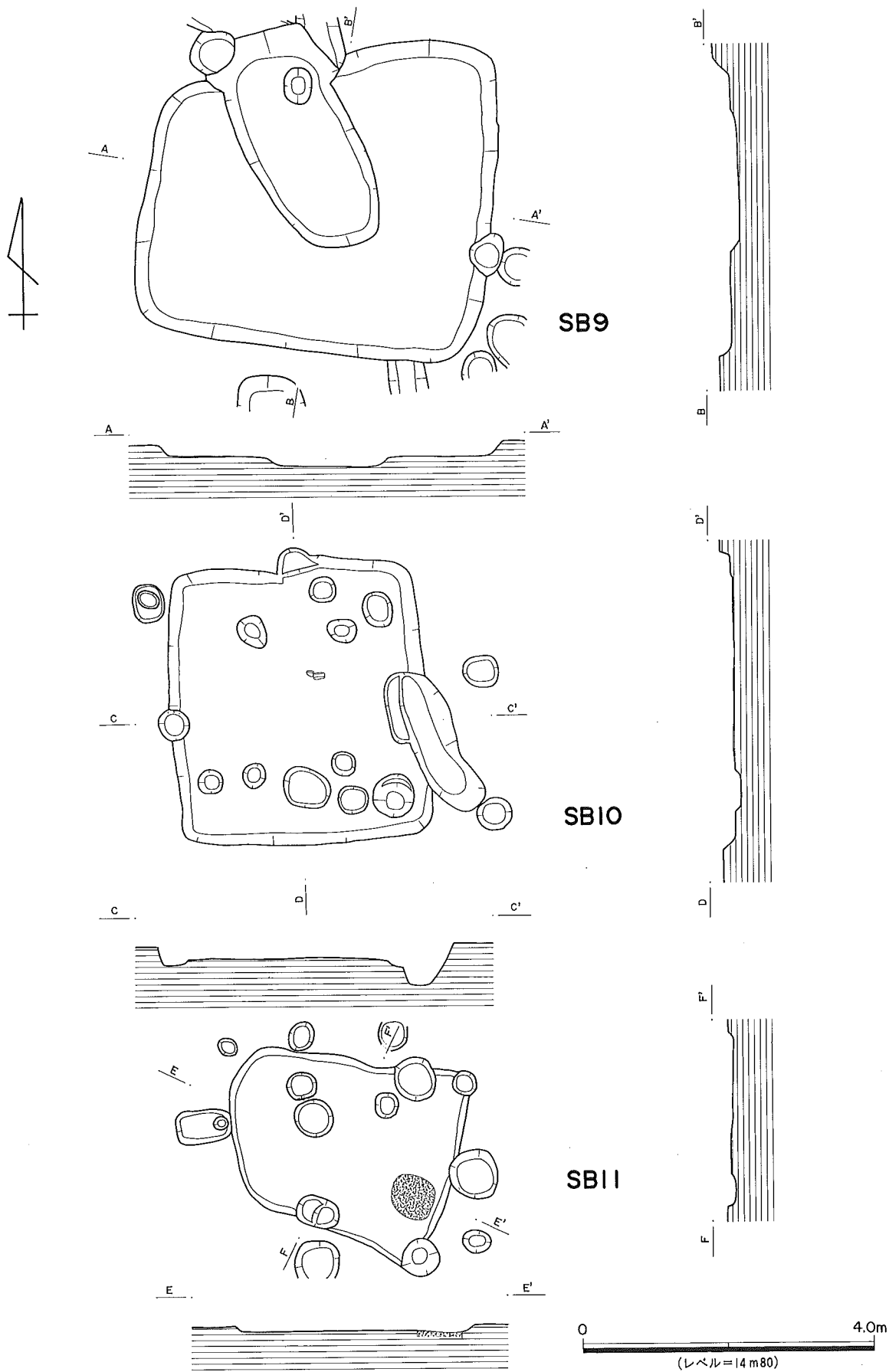
第8図 SB1, SB2, SB3, SB4実測図



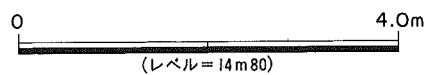
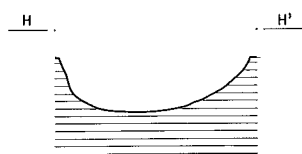
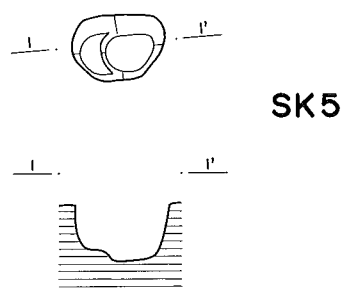
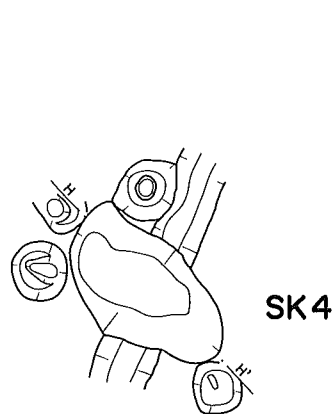
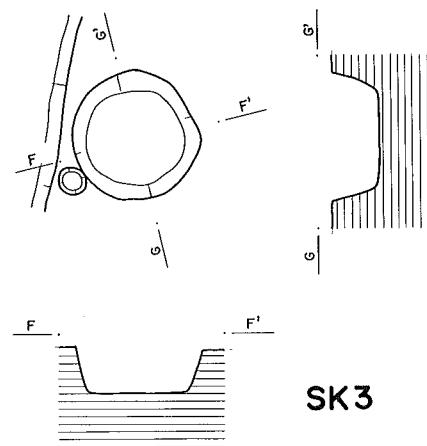
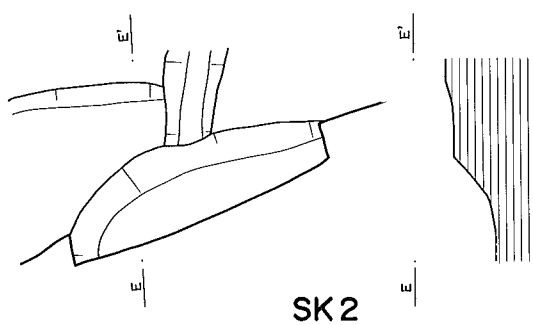
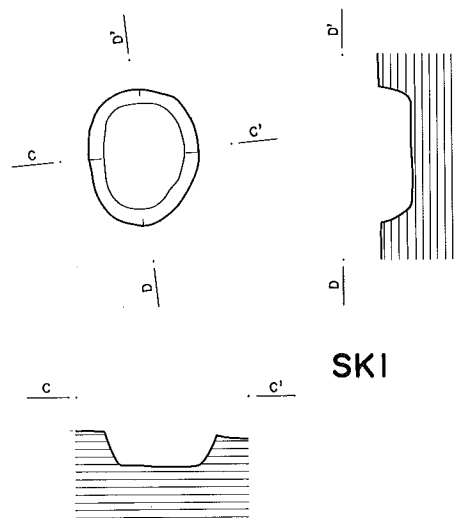
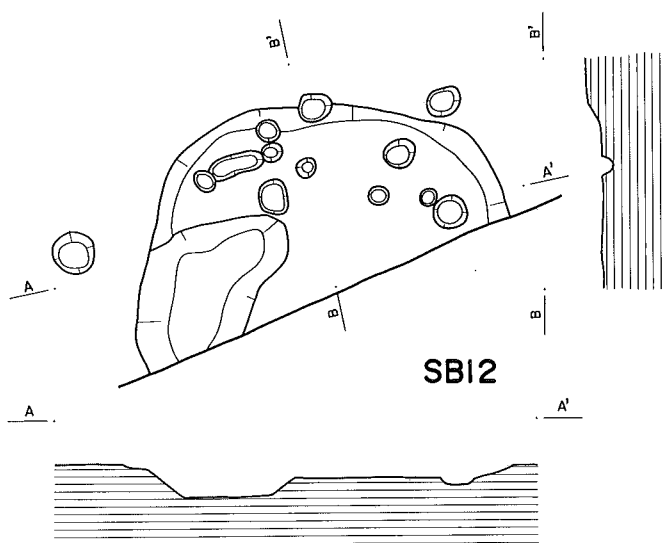
第9図 SB5, SB6実測図



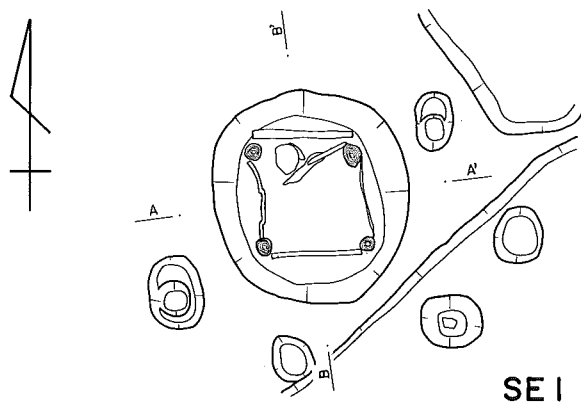
第10図 SB7, SB8実測図



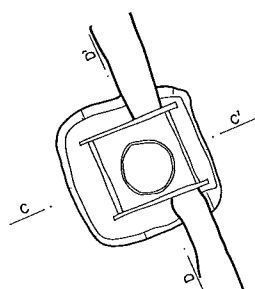
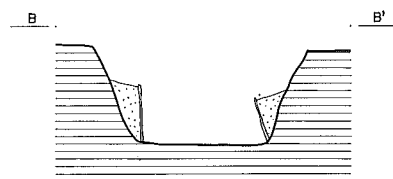
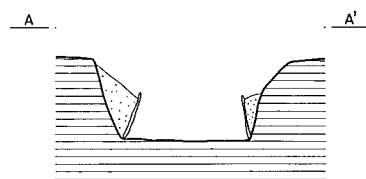
第11図 SB 9, SB10, SB11実測図



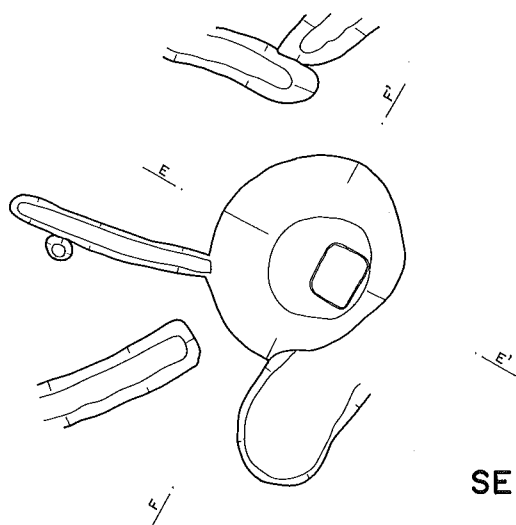
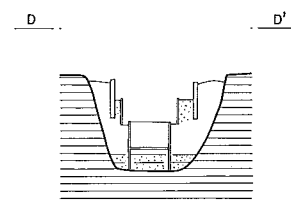
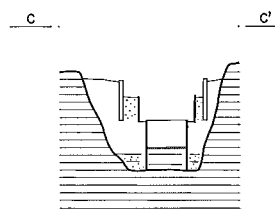
第12図 SB12, SK1, SK2, SK3, SK4, SK5実測図



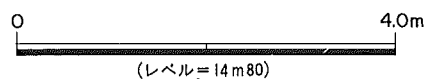
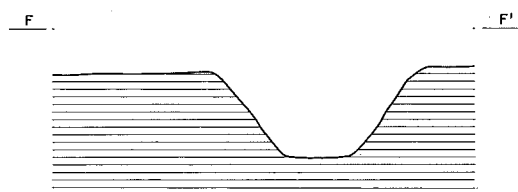
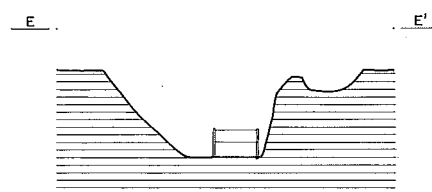
SE 1



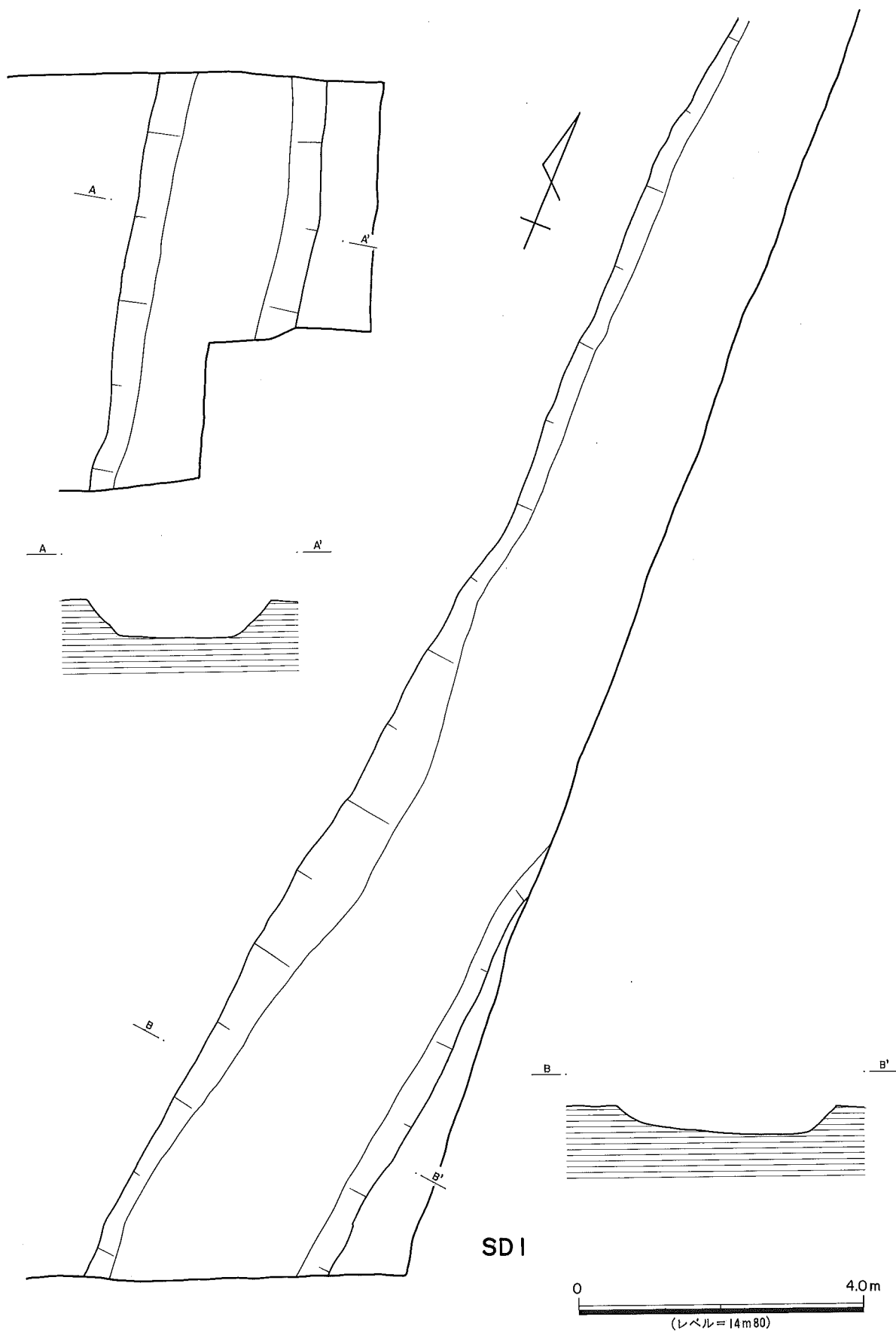
SE 2



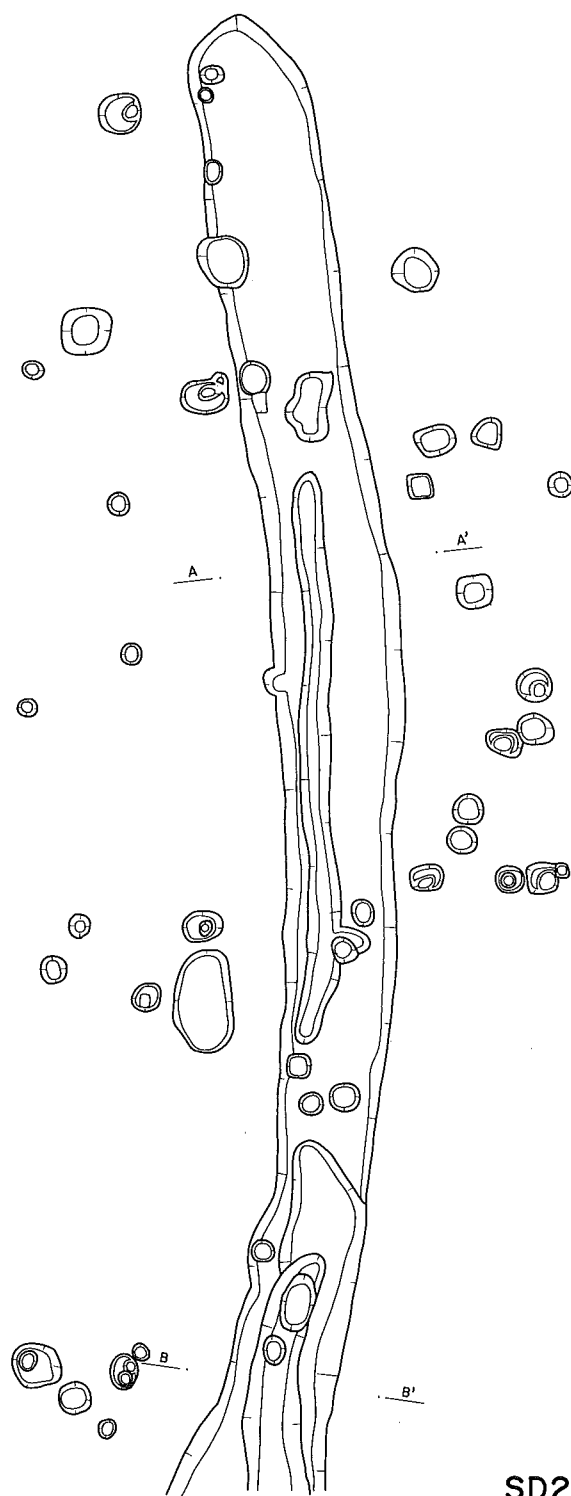
SE 3



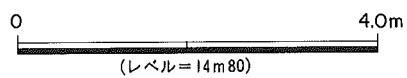
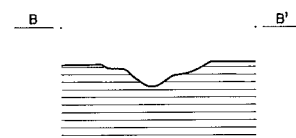
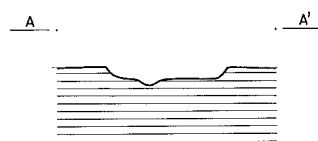
第13図 SE 1, SE 2, SE 3 実測図



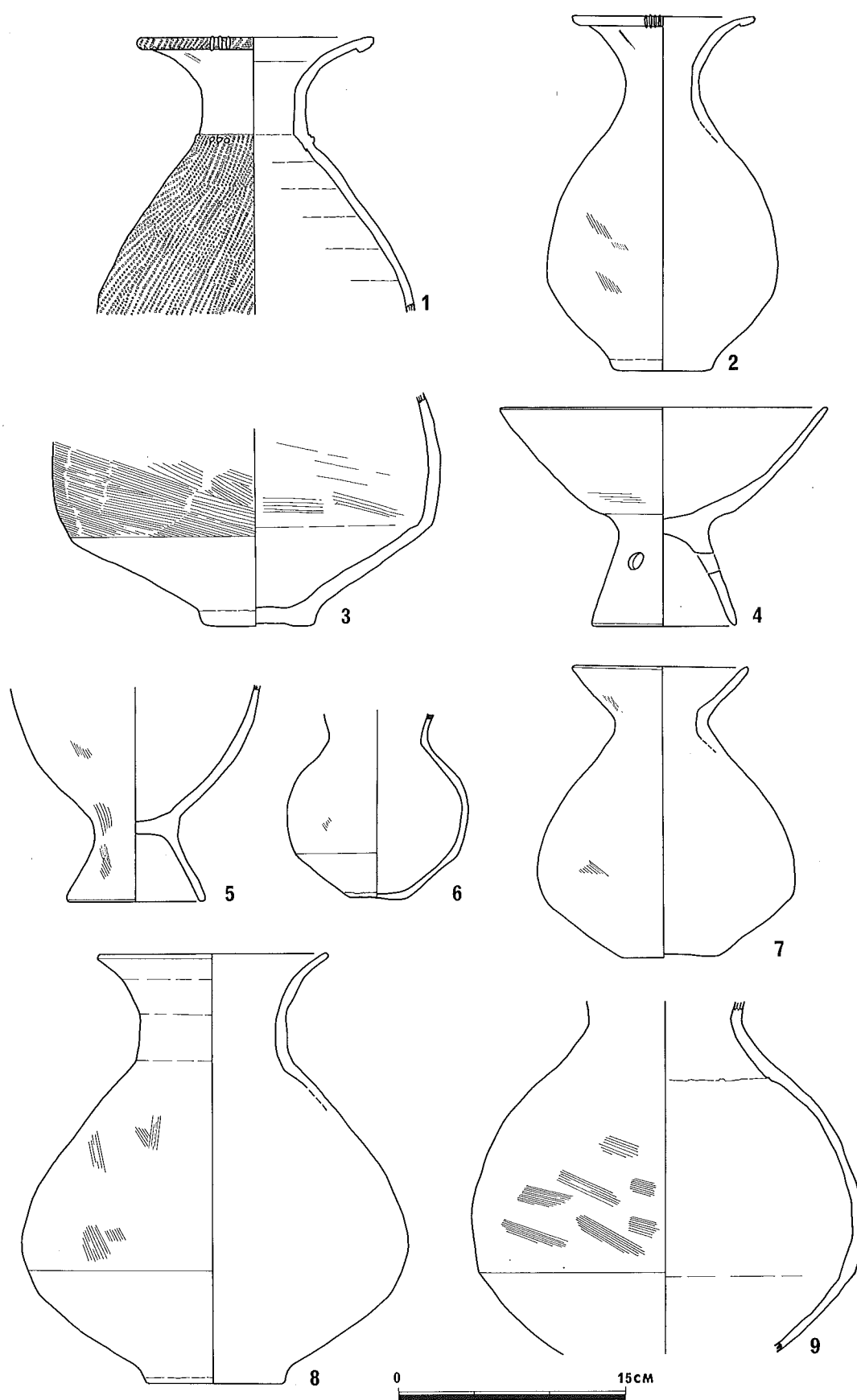
第14図 SD I 実測図



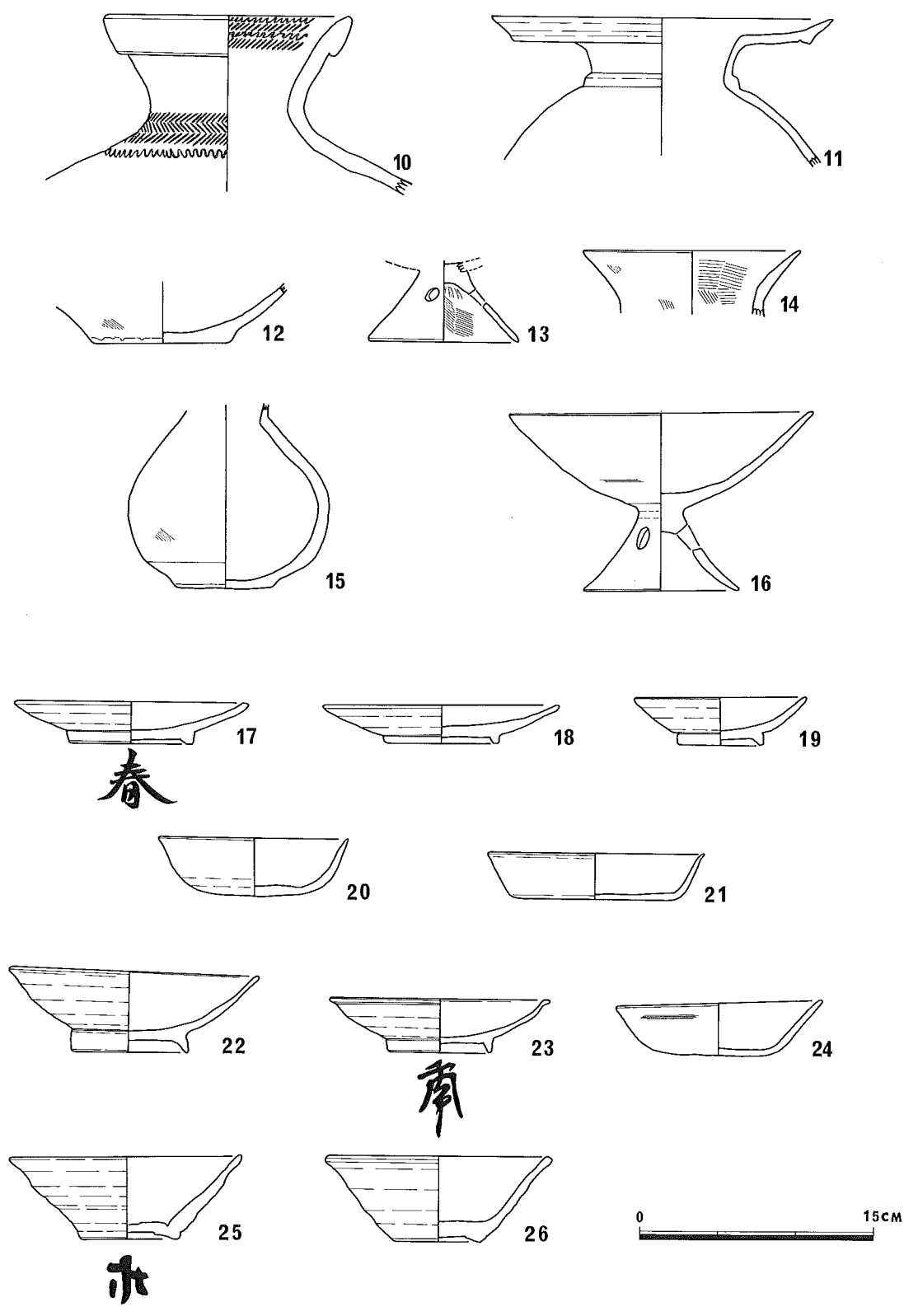
SD2



第15図 S D 2 実測図



第16図 出土土器実測図(1)



第17图 出土土器实测图 (2)

写真図版



鶴田Ⅱ遺跡 調査区全景



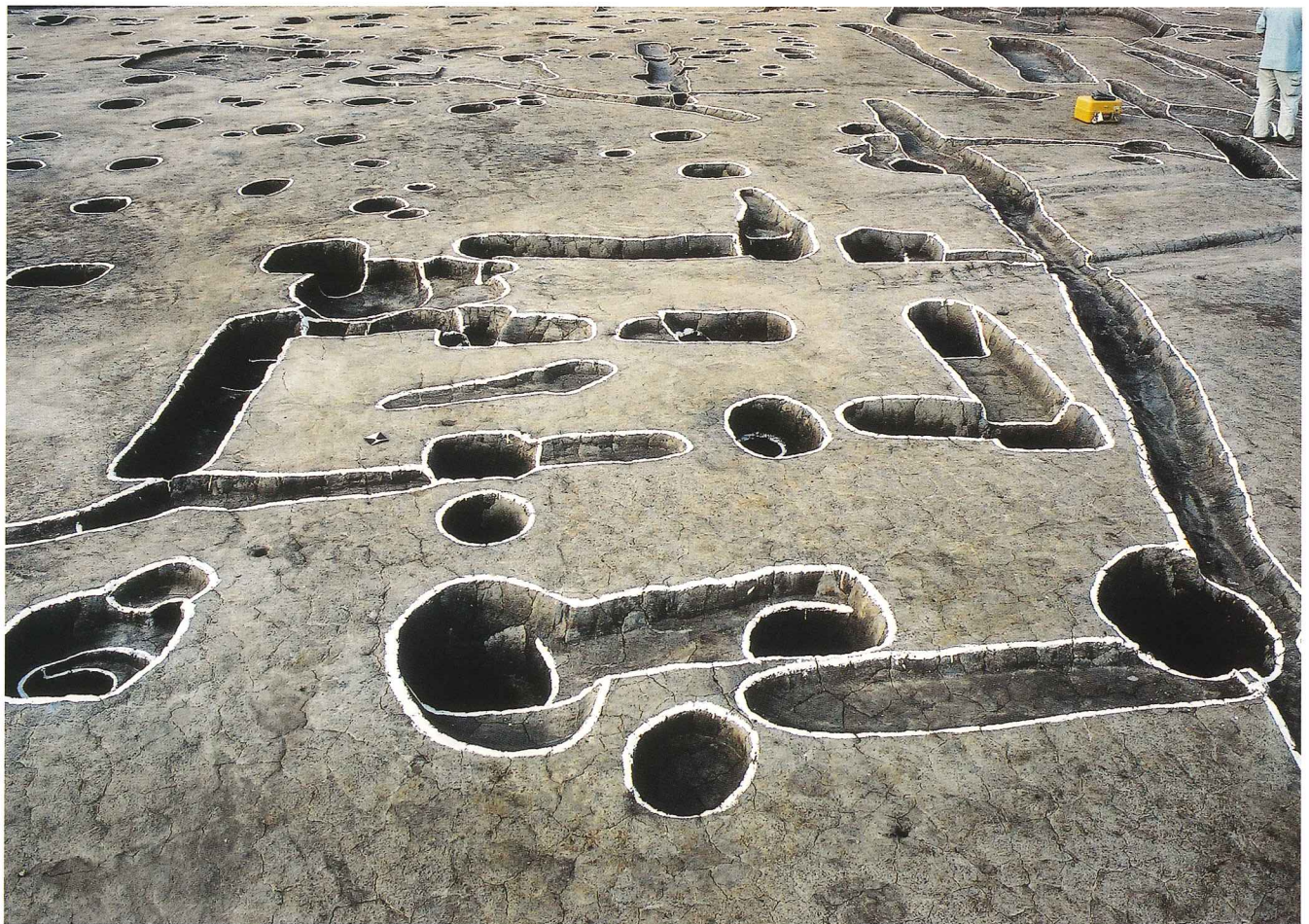
(1) 調査区全景 (東南より)



(2) 遺構の確認状況



(1) 発掘の状況 (西北部分)



(2) SH1 完了写真 (南より)



(1) SH2 完了写真 (西より)



(2) SH3 完了写真 (北より)



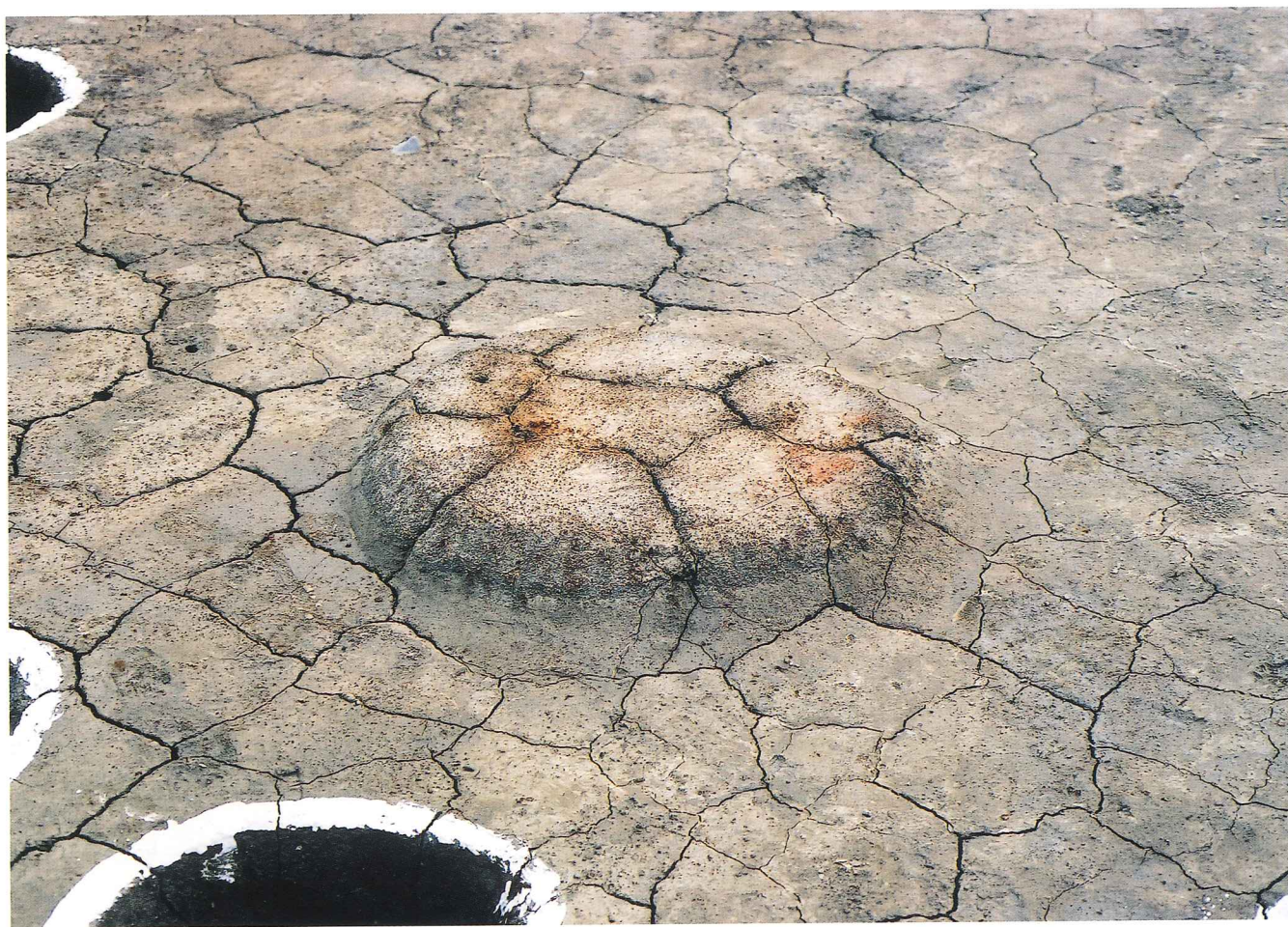
(1) SB1, 2, 3, 4 完了写真 (南より)



(2) SB1, 2, 3, 4 完了写真 (北より)



(1) SB4 完了写真 (西より)



(2) SB4 炉跡 (東より)



(1) SB 1, 2, 3 完了写真 (東より)



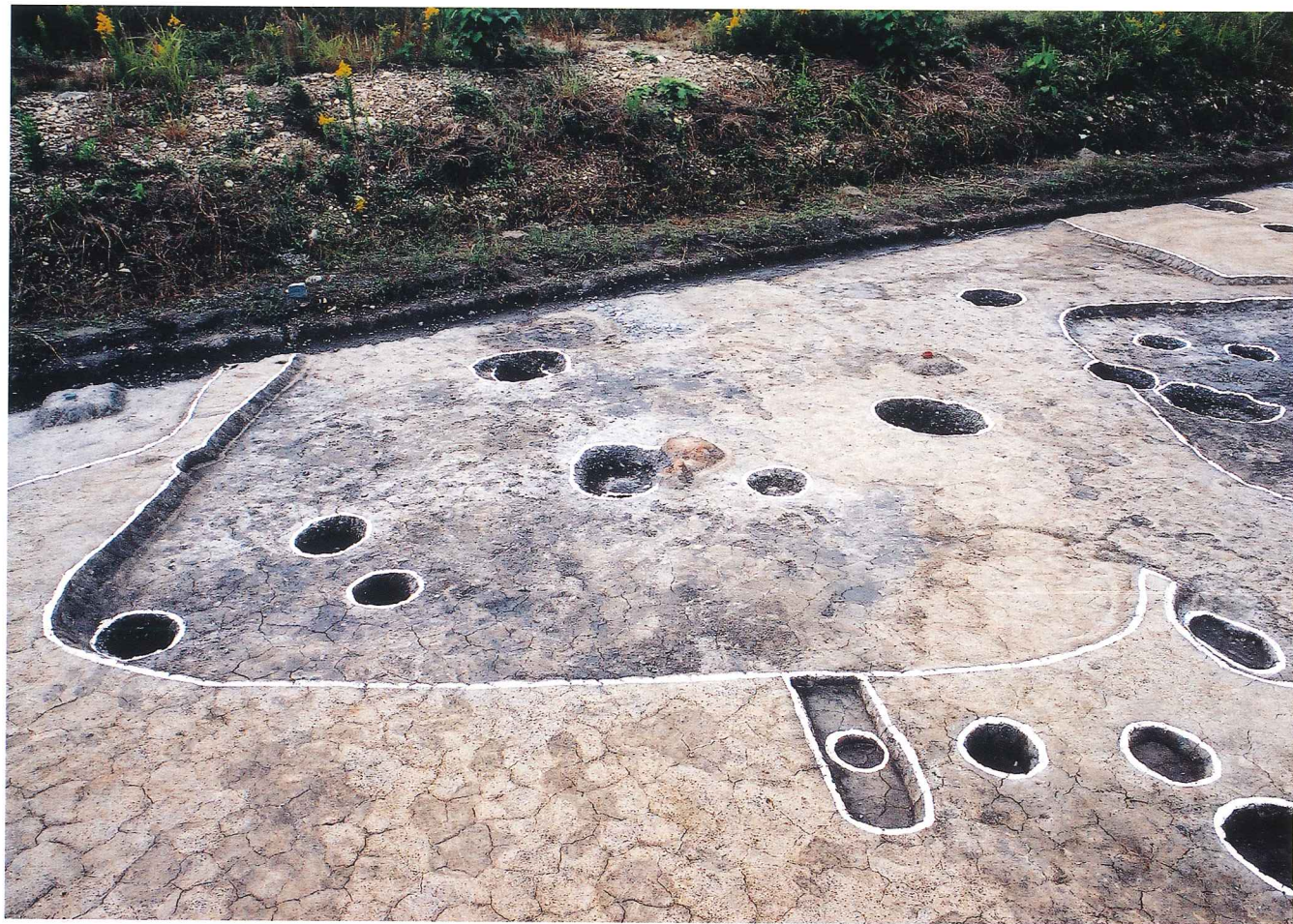
(2) SB 1, 2, 3 炉跡 (北より)



(1) SB 5, 6 完了写真 (北より)



(2) SB 5, 6の発掘調査 (西より)



(1) SB6 完了写真 (東より)



(2) SB6 炉跡 (東より)



(1) SB7 完了写真 (東より)



(2) SB8 完了写真 (南より)



(1) SB9 完了写真 (西より)



(2) SB10 完了写真 (西より)



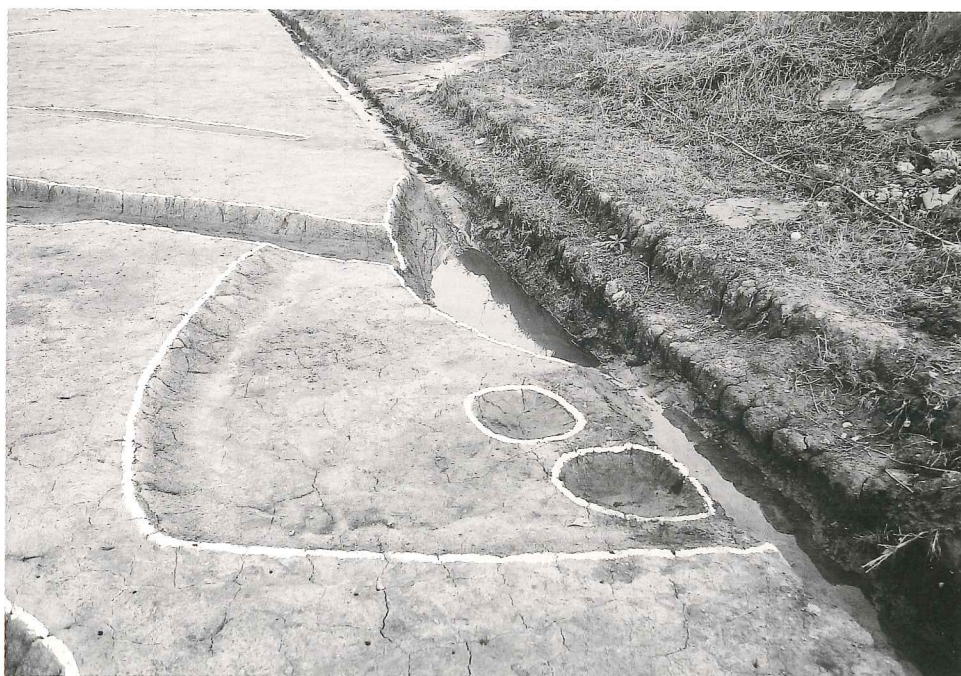
(1) SB11 完了写真 (南より)



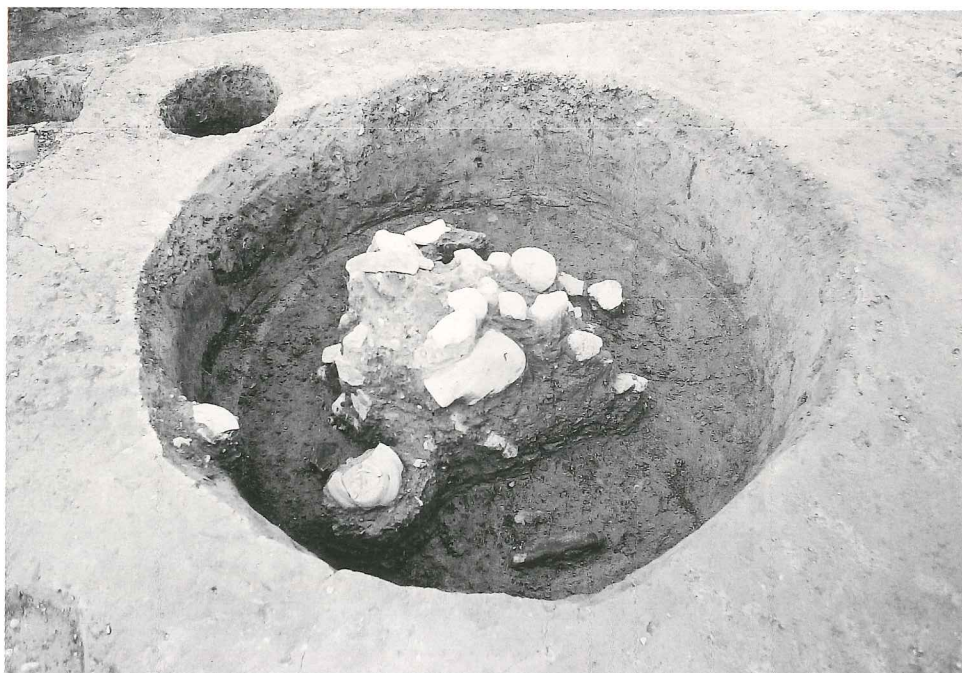
(2) SB12 完了写真 (南西より)



(1) SK 1 遺物出土状況



(2) SK 2 完了写真 (西より)



(3) SK 3 遺物出土状況 (東より)



(1) SK 3 出土遺物拡大



(2) SK 4 完了写真 (西より)



(3) SK 5 完了写真 (東より)



(1) S E 2 遺構検出状況



(2) S E 2 曲物の重ねた状況



(3) S E 2 出土した土器



(1) SE3 完了写真 (北西より)



(2) SE3 出土した土器



(3) SE1 遺構検出状況



(1) SD1 完了写真 (南より)



(2) SD1の北側 完了写真 (南より)



(3) SD2 完了写真 (東より)



(1) 柱穴の発掘状況



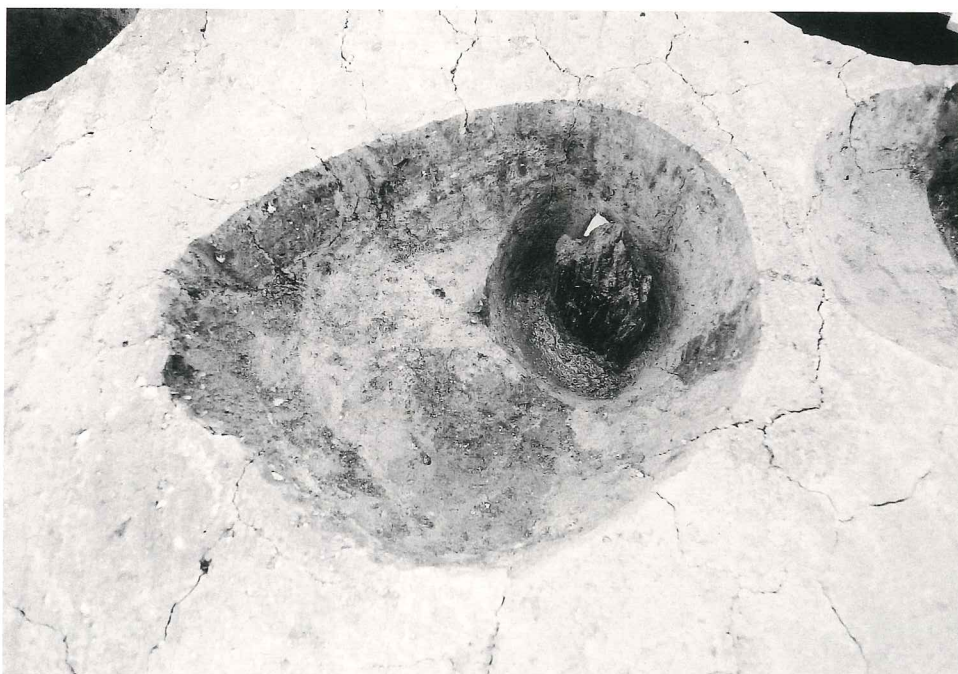
(2) 礎板の出土状況



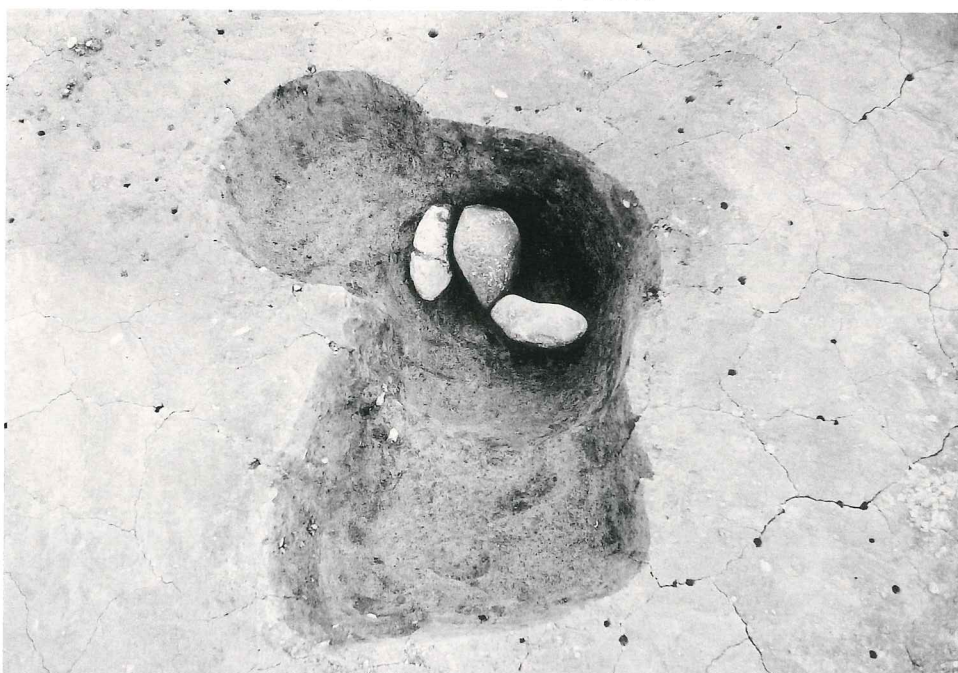
(3) 柱穴の完了写真



(1) 礎板の出土状況



(2) 柱穴に残った柱根部分



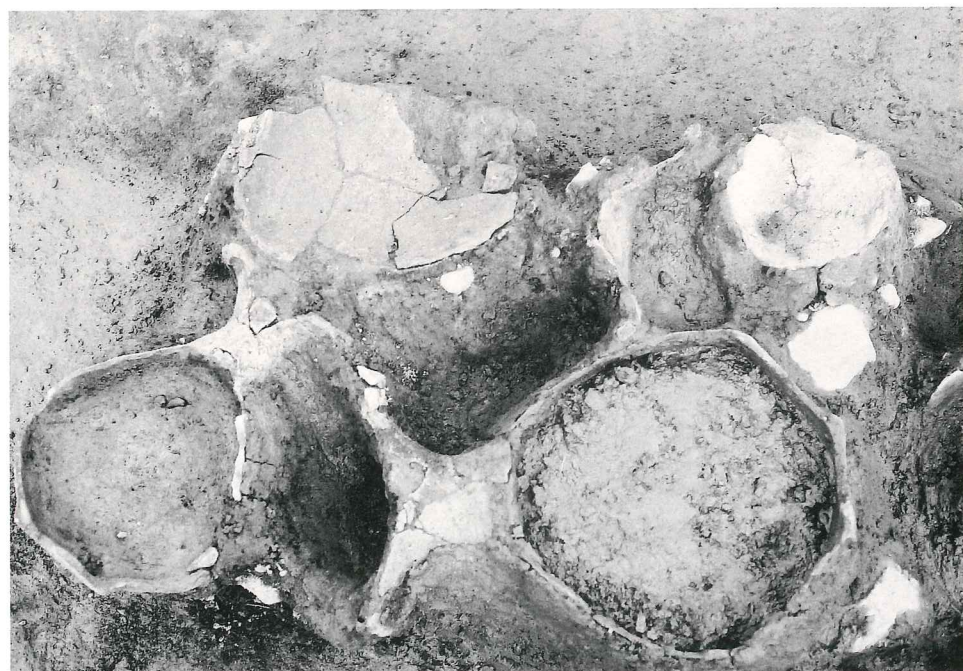
(3) 柱穴内の礎石



(1) 溝跡より出土した弥生土器



(2) 262 完了写真 (東より)



(3) 262 出土遺物の拡大



(1) 226 出土土器の発掘



(2) 226 土器の出土



(3) 226 土師器の出土



(1) 溝跡より出土した土器



(2) SK2の発掘の状況(西より)



(3) 土器の出土状況



(1) SK5の発掘調査



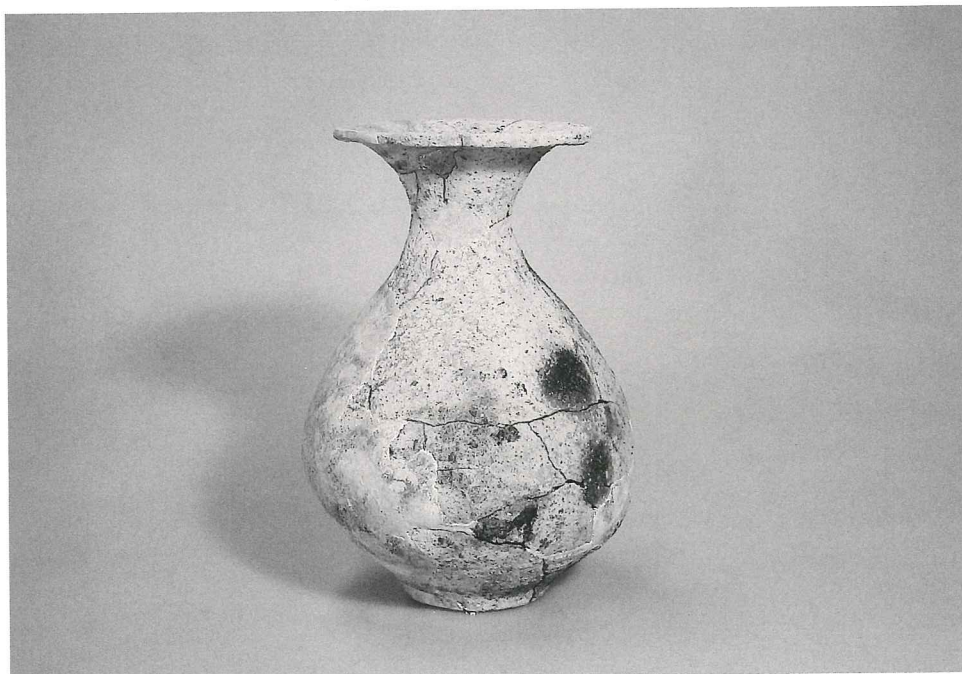
(2) 502 土師器の坏身が出土



(3) 012 須恵器の坏蓋の出土



(1) 262 出土土器-1



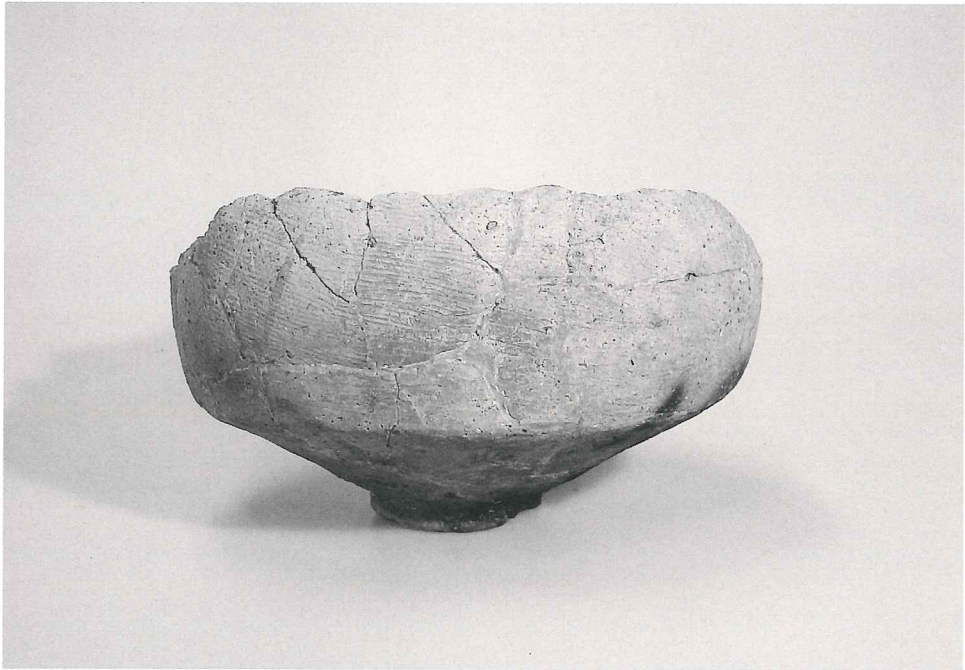
(2) 262 出土土器-2



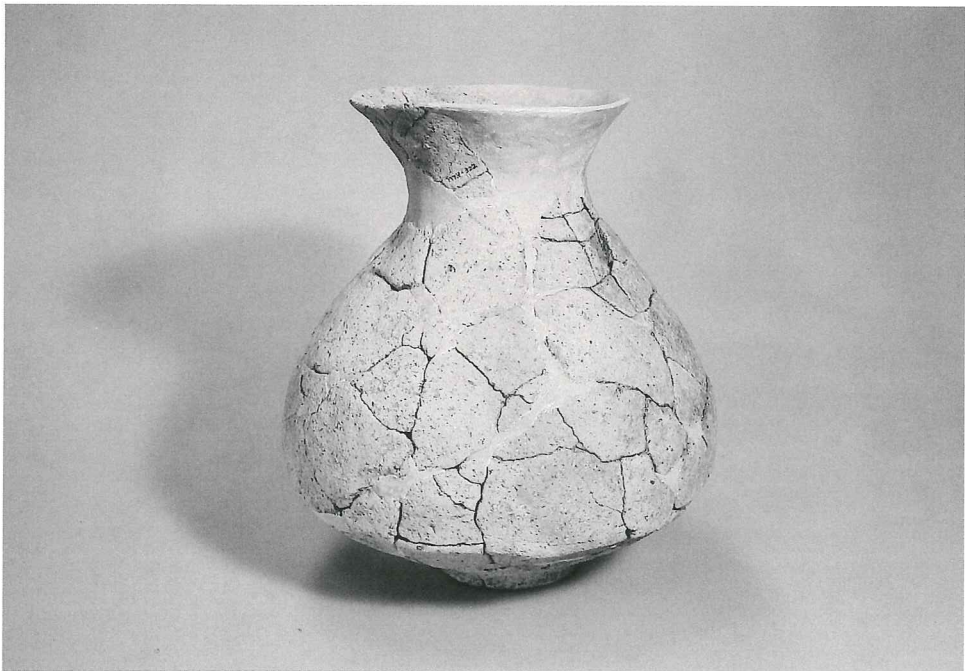
(3) 262 出土土器



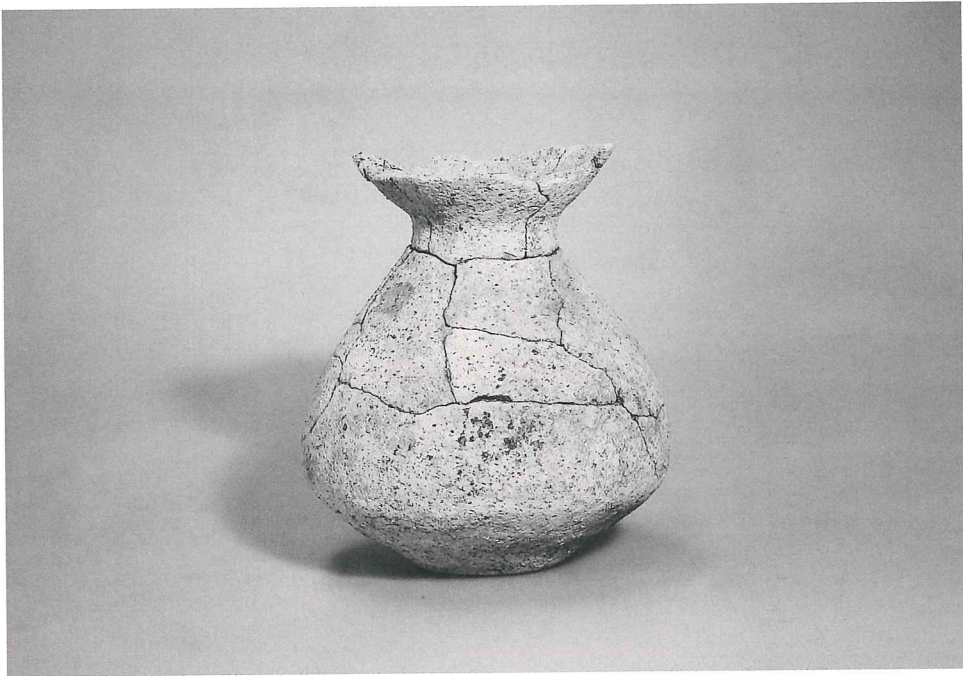
(1) SK 4 出土土器-4



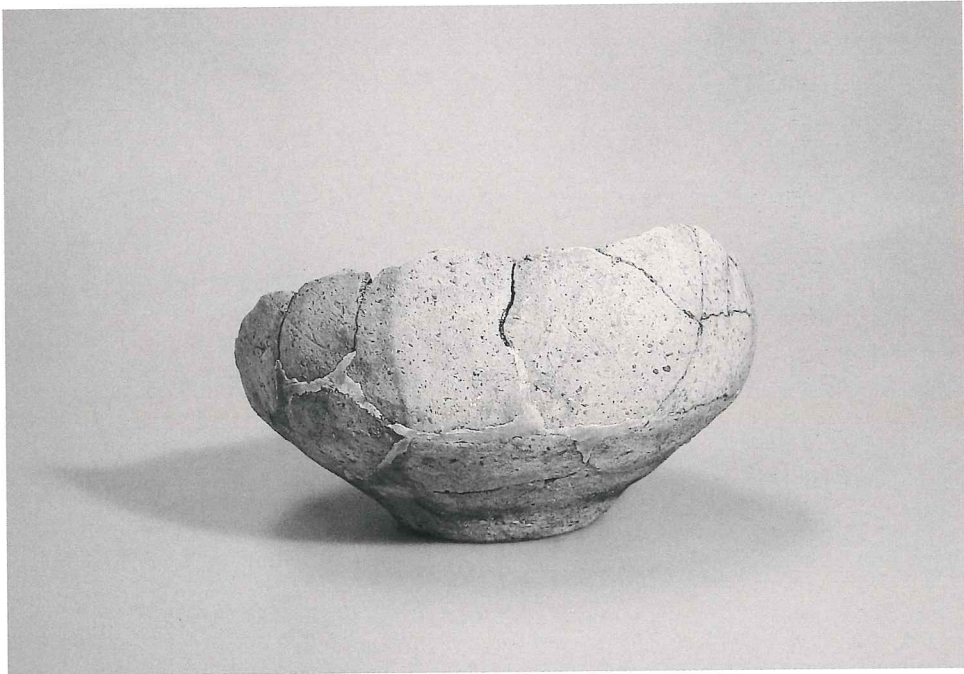
(2) SK 4 出土土器-3



(3) 2 2 6 出土土器-8



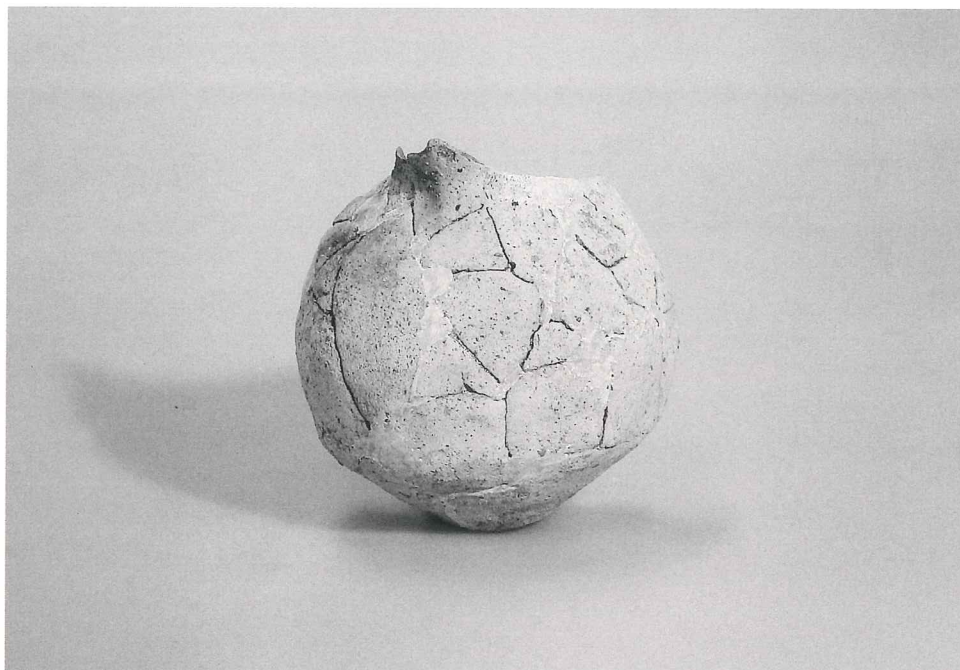
(1) 226 出土土器-7



(2) 226 出土土器



(3) 226 出土土器



(1) 226 出土土器—6



(2) 226 出土土器



(3) 226 出土土器—5



(1) S B 6 出土土器-11



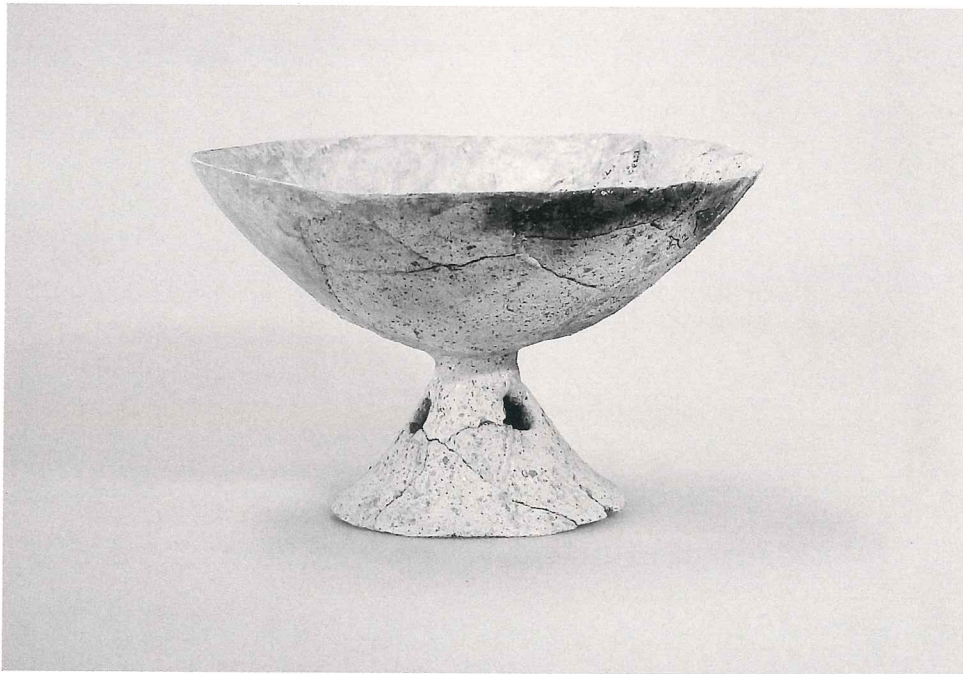
(2) S B 5 出土土器-10



(3) S B 10 出土土器-13



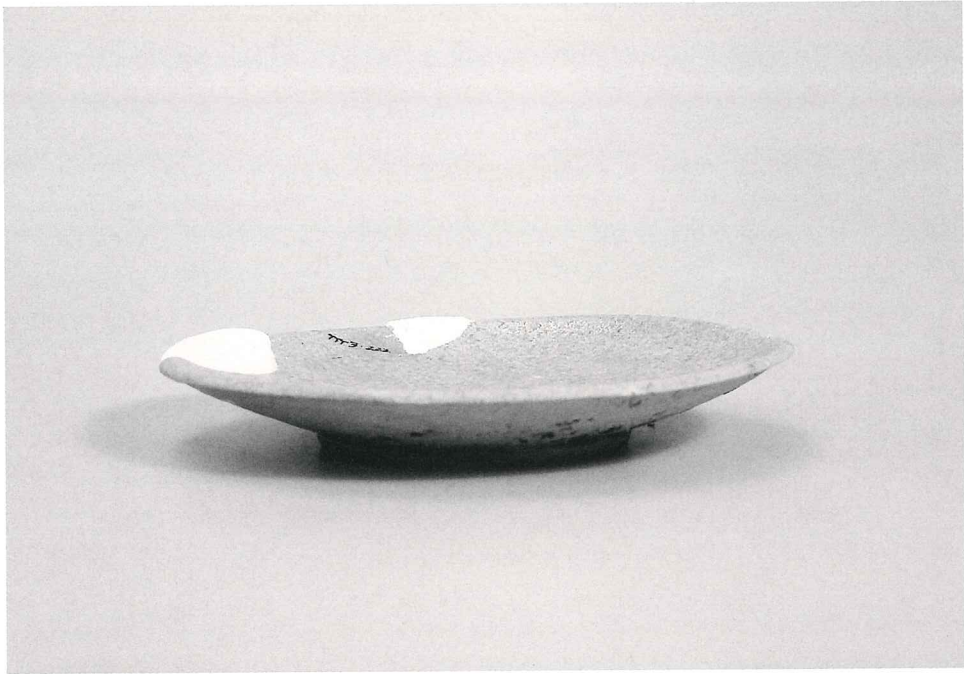
(1) S B 10 出土土器-15



(2) S B 9 出土土器-16



(3) 土壇内 出土土器-24



(1) S E 3 出土土器-18



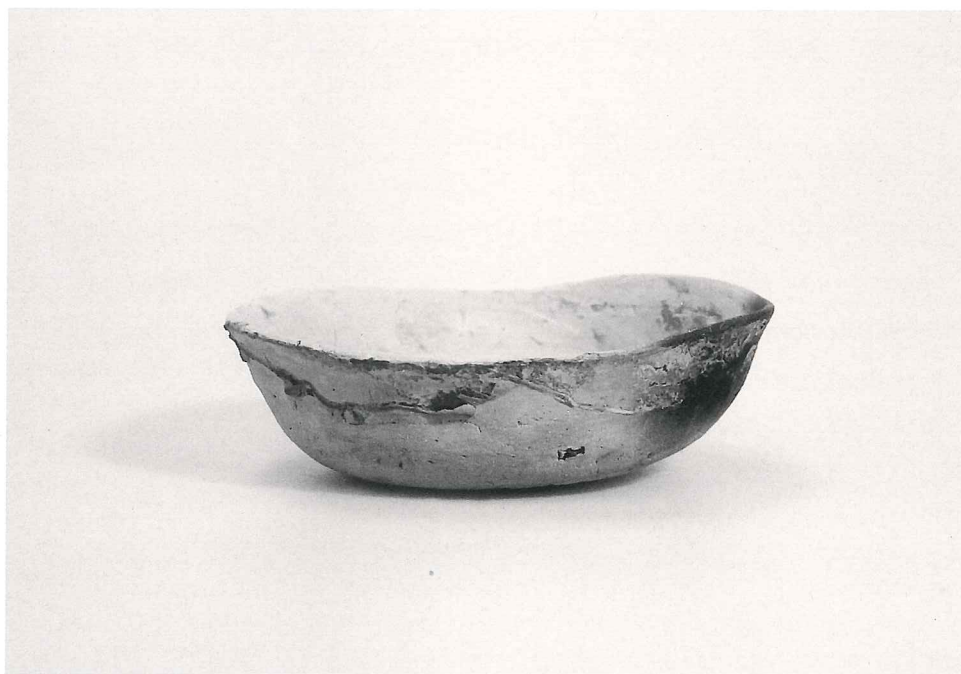
(2) S K 3 出土土器-26



(3) 4 0 3 出土土器



(1) S E 2 出土土器-22



(2) S E 3 出土土器-20



(3) 0 1 2 出土土器



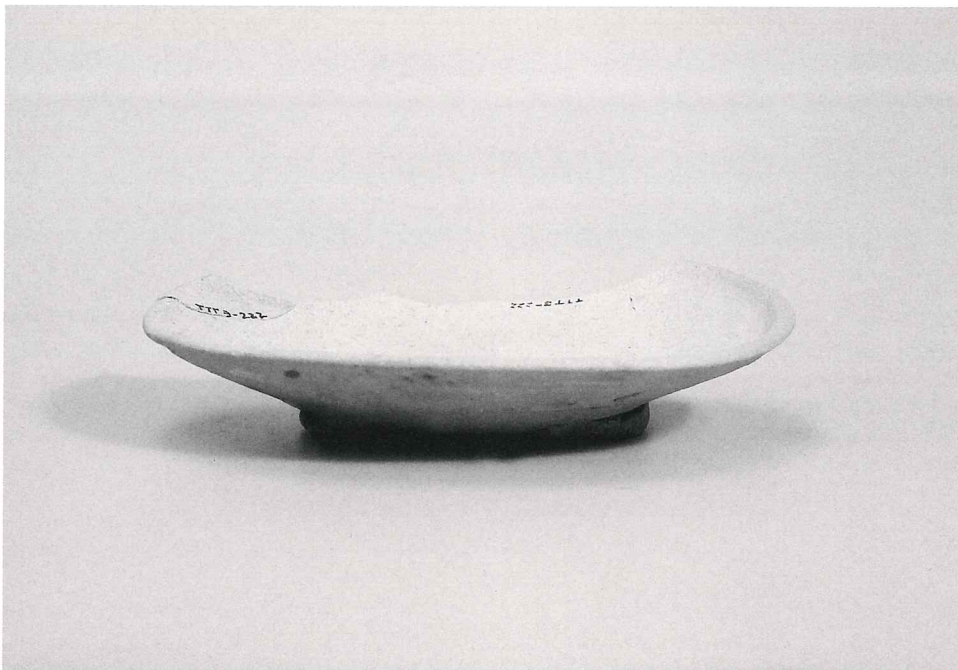
(1) SE 3 出土土器-21



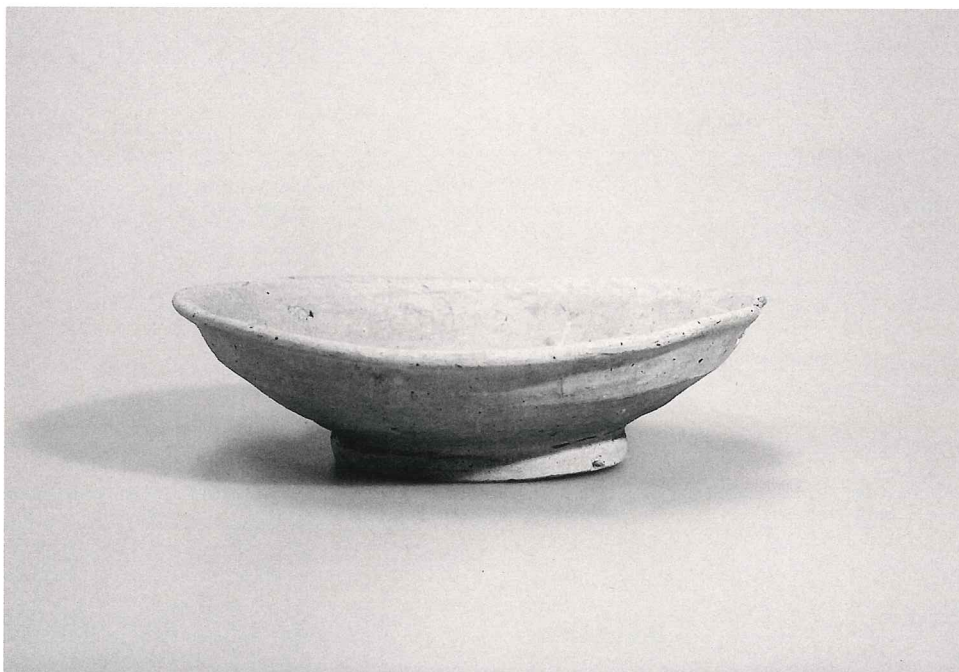
(2) 墨書土器「春」



(3) 墨書土器「□□」



(1) S E 3 出土墨書土器「春」一次ページ (1) と同じ



(2) S E 2 出土墨書土器「□」一次ページ (2) と同じ



(3) S K 3 出土墨書土器「□」一次ページ (3) と同じ



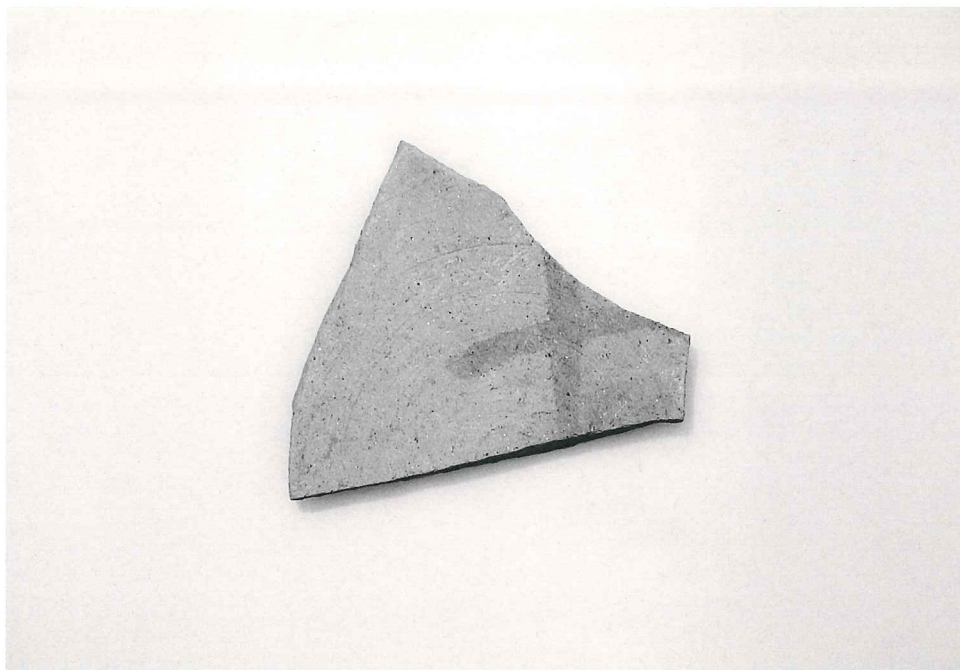
(1) SE3出土墨書土器「春」—前ページ(1)と同じ



(2) SE2出土墨書土器「角」—前ページ(2)と同じ



(3) SK3出土墨書土器「口」—前ページ(3)と同じ



(1) 墨書土器「+」



(2) 墨書土器「+」



(3) 墨書土器「+」

報告書抄録

ふりがな	つるた に いせき							
書名	鶴田Ⅱ遺跡							
副書名	平成14年度 発掘調査報告書							
編集者名	永井 義博							
編集機関	袋井市教育委員会							
所在地	〒437-8666 静岡県袋井市新屋一丁目1番地の1 TEL 0538-44-3141							
発行年月日	2004年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
つるた に いせき 鶴田Ⅱ遺跡	しずおかけんふくろいし 静岡県袋井市 やましな 山科	22216	125	34° 46′ 11″	137° 54′ 09″	2002.5.7 ↓ 2003.3.25	2500	物流倉庫 建設
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
つるた に いせき 鶴田Ⅱ遺跡	集落跡 散布地	弥生時代 古墳時代 中 世	住居跡、柱穴跡、 掘立柱建物、土壇 井戸跡、溝跡		弥生土器 土 師 器 須 恵 器 墨書土器		文字資料として墨書 土器「春」2点を出 土する。	

鶴田Ⅱ遺跡

平成14年度 発掘調査報告書

2004年3月

編集 静岡県袋井市新屋1-1-1
袋井市教育委員会
☎0538-44-3141

印刷 静岡県榛原郡吉田町片岡2210
松本印刷株式会社